

数値目標の推進状況について

国土交通省 北海道局
令和元年6月

1	数値目標の推進状況（総括表）	1
2	来道外国人旅行者数	2
3	外国人宿泊客延数の地方部割合（地域平準）	5
4	客室稼働率の季節較差（季節平準）	8
5	平成30年北海道胆振東部地震の観光への影響	12
6	農業産出額	14
7	食料品製造業出荷額	18
8	道産食品輸出額	22
9	平成30年北海道胆振東部地震による農林水産関係被害 状況	24

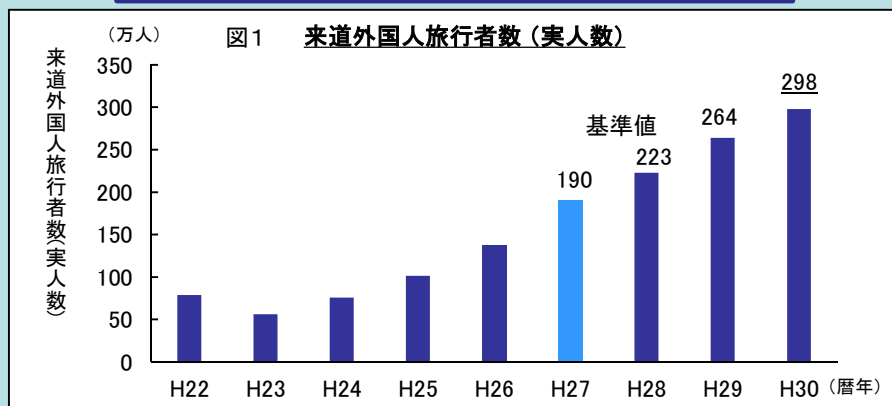
1 数値目標の推進状況（総括表）

指標	基準値	現状値	数値目標	推進状況
来道外国人旅行者数	190万人 (H27年)	298万人 (H30年)	500万人 (R2年)	<ul style="list-style-type: none"> 基準値からは増加傾向で推移しており、H29年(対前年+18.4%)、H30年(+12.9%)ともに大幅な伸びとなっているが、目標達成のためには、今後、年率30%以上の伸びが必要。
外国人宿泊客延数の地方部割合 (地域平準)	27%(27.4%) (H27年)	26.4% (H29年)	36% (R2年)	<ul style="list-style-type: none"> 基準値を下回って推移している。地方部の外国人宿泊客延数は増加しているものの、道央部の伸びがそれを上回っている。地方部全域へのバランスの取れた誘客が必要。
客室稼働率の季節較差 (季節平準)	1.7倍(1.72倍) (H27年)	1.58倍 (H29年)	1.4倍 (R2年)	<ul style="list-style-type: none"> 基準値からは標準化する傾向で推移しているものの、目標達成のためには、低稼働月の更なる稼働率の向上が必要。
農業産出額	11,110億円 (H26年)	12,762億円 (H29年)	12,000億円 (R7年)	<ul style="list-style-type: none"> 基準値から増加傾向で推移し、H28、29年に農業産出額が目標値を上回ったが、生産量については概ね横ばいで推移している。フォローアップの継続が必要。
食料品製造業出荷額	19,846億円 (H26年)	21,602億円 (H28年)	22,000億円 (R7年)	<ul style="list-style-type: none"> 基準値から増加傾向で推移し、H27に目標値を上回ったものの、H28には目標値を下回った。付加価値率については、全国と比較し、低い水準にとどまっている。フォローアップの継続が必要。
道産食品輸出額	663億円 (H26年)	674億円 (H29年)	1,500億円 (R7年)	<ul style="list-style-type: none"> 基準値から増加しているものの、主な輸出品であるホタテガイの水揚げが減少したこと等の影響を受け、近年は伸び悩んでいる。

2 来道外国人旅行者数

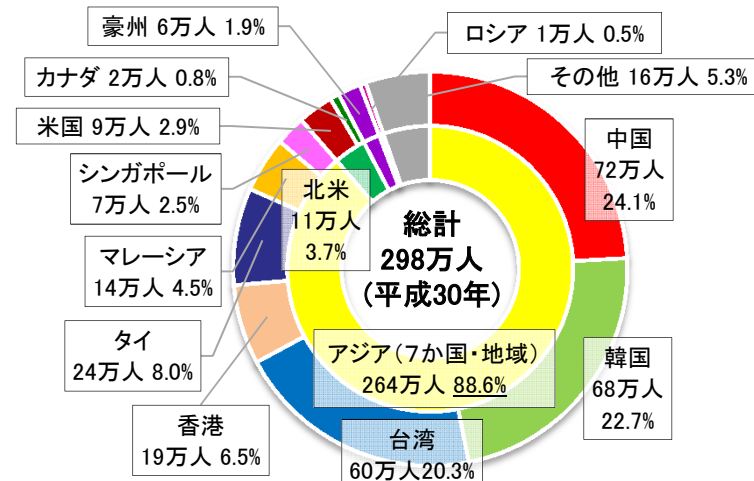
- 平成30年の来道外国人旅行者数は、前年の264万人から34万人(12.9%)増の298万人となっている。
 - 平成30年における訪日外国人旅行者に占める来道外国人旅行者の割合は、前年の9.2%から0.4ポイント増の9.6%となっている。
 - 平成30年における来道外国人旅行者の国・地域別内訳を見ると、アジア7か国・地域からの旅行者が全体の約9割を占め、近年、中国、韓国、台湾、香港、タイからの旅行者が増加傾向で推移している。
- (参考) 国・地域別総人口に占める来道外国人旅行者数の割合には、バラツキが見られる。

【平成27年】 190万人 → 【平成30年】 298万人 → 目標【令和2年】 500万人



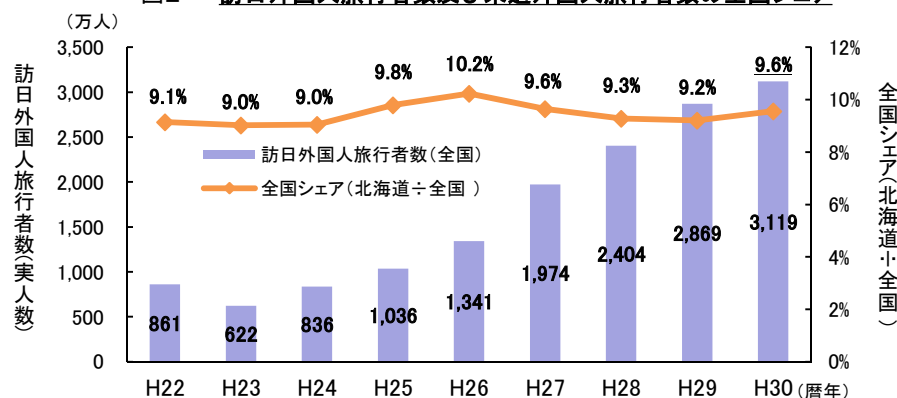
出典:北海道「北海道観光入込客数調査報告書」

図3 平成30年来道外国人旅行者数(実人数)



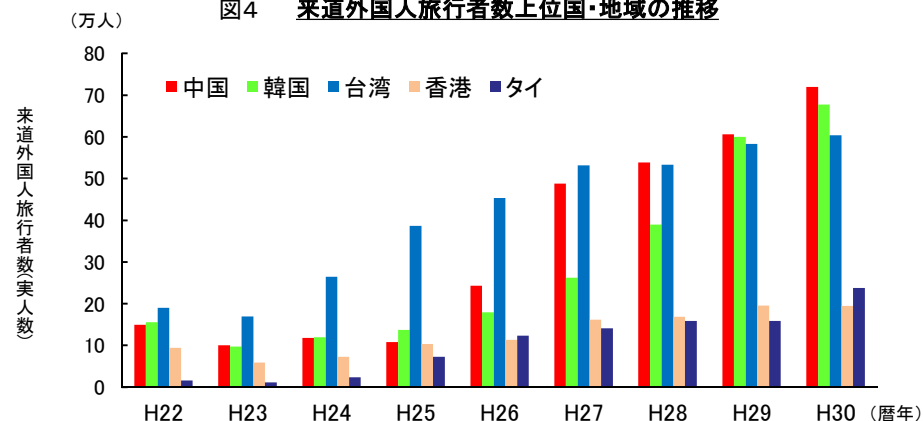
出典:北海道「北海道観光入込客数調査報告書」

図2 訪日外国人旅行者数及び来道外国人旅行者数の全国シェア



2 出典:日本政府観光局「訪日外客数」、北海道「北海道観光入込客数調査報告書」

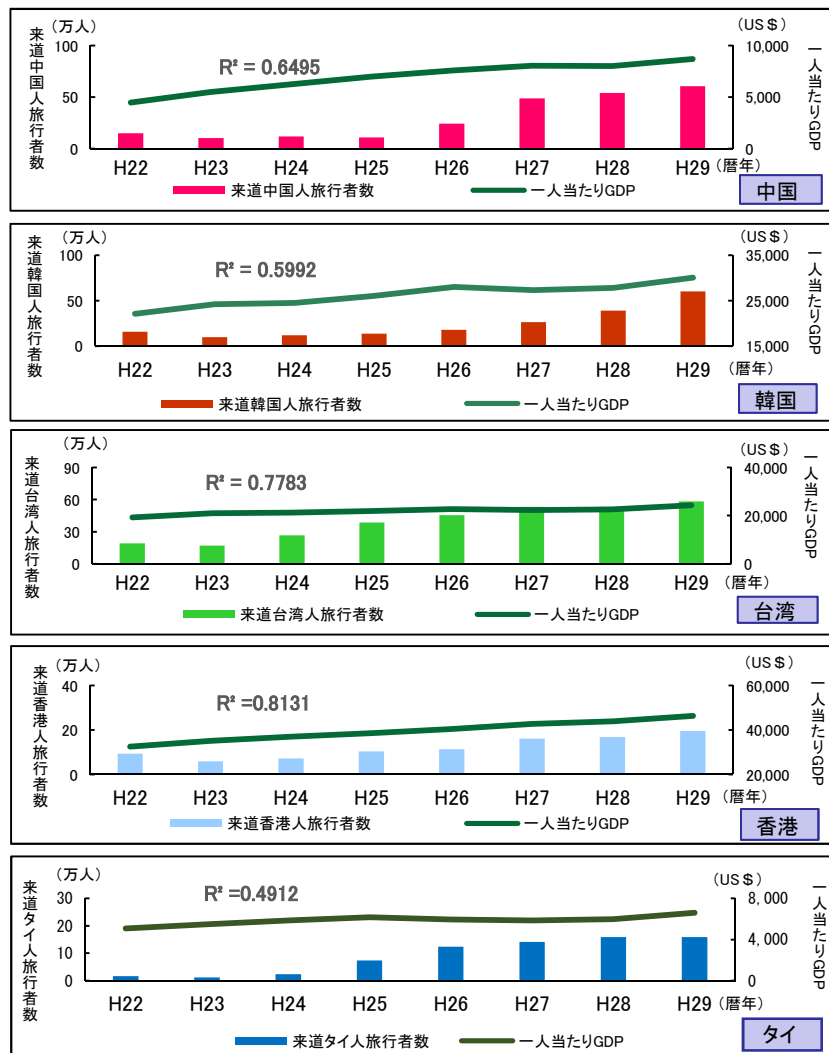
図4 来道外国人旅行者数上位国・地域の推移



出典:北海道「北海道観光入込客数調査報告書」

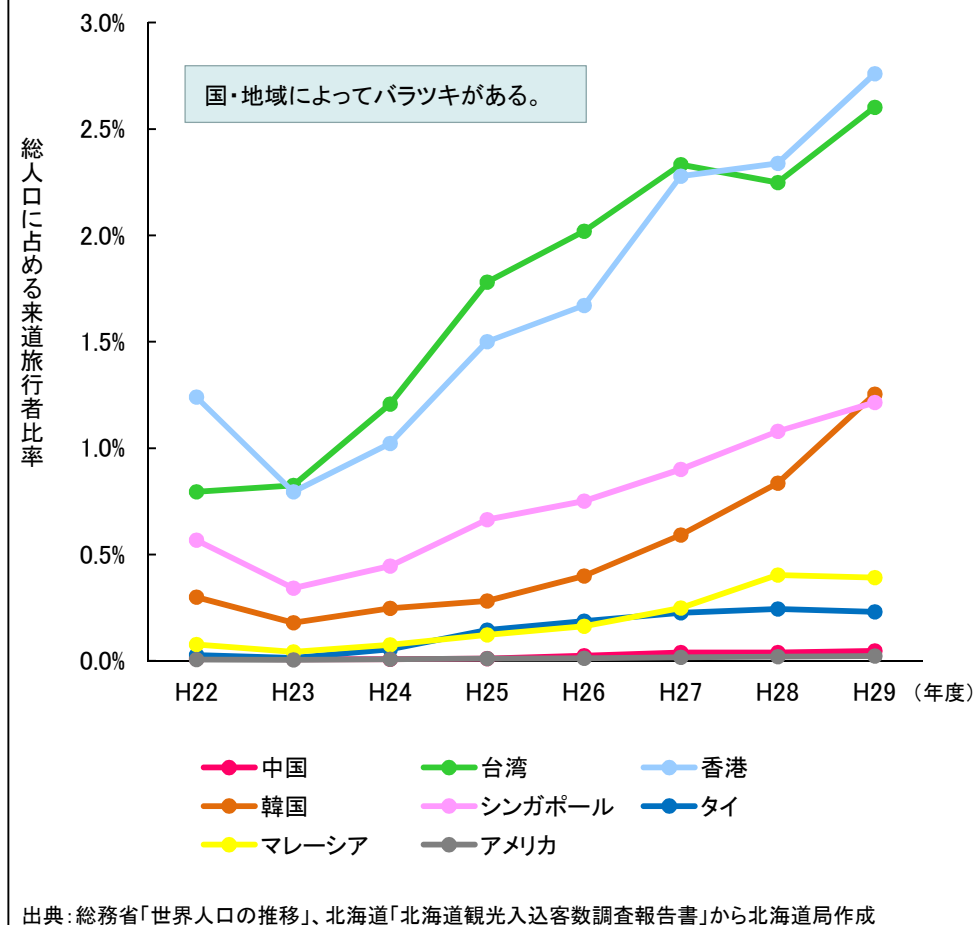
(参考:モニタリング指標等)

図5 国・地域別来道外国人旅行者数・一人当たりGDP(上位国・地域)



注 :R²は、相関に関する決定係数であり、0から1の間の数値となる。1に近いほど相関が高い。
 出典 :国・地域別一人当たりGDPは、UNのNational Accounts Main Aggregates Database、台湾国家発展委員会・Taiwan Statistical Data Book 2017、1-1a. Indicators of the Taiwan Economy (P19) Per Capita GDP - US\$
 来道外国人(中国・台湾・韓国・香港)旅行者数は北海道「北海道観光入込客数調査報告書」

図6 国・地域別総人口に占める来道旅行者比率



(参考:モニタリング指標等)

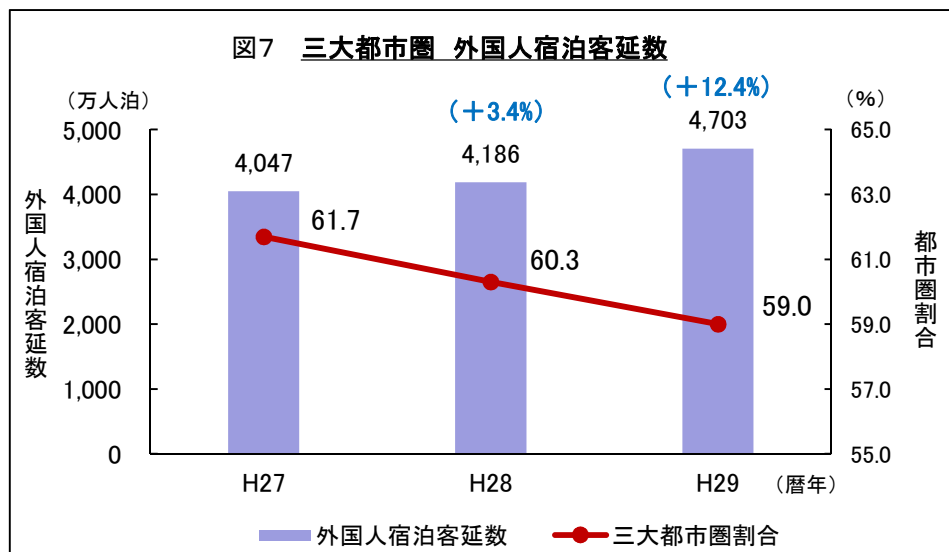
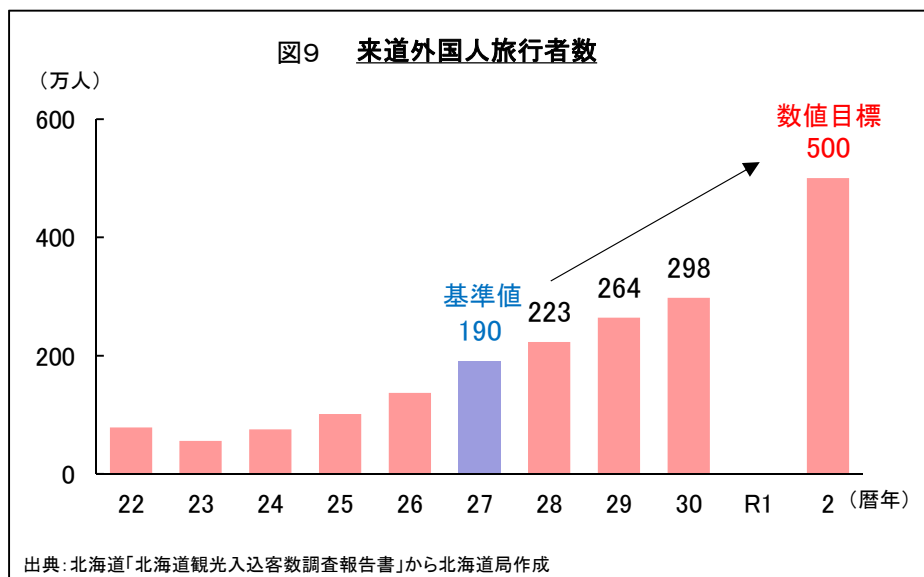
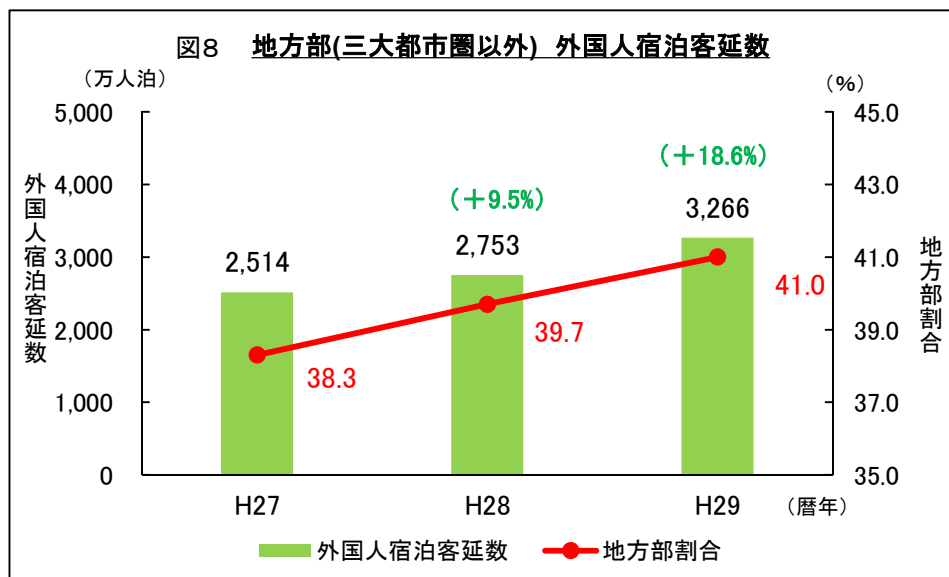


表 日本の観光地への訪問意向(複数回答)

	アジア全体		中国		台湾		香港		韓国		シンガポール	
1位	東京	43%	富士山	40%	北海道	51%	北海道	50%	東京	38%	北海道	51%
2位	北海道	40%	北海道	33%	東京	46%	大阪	41%	札幌	36%	東京	47%
3位	富士山	40%	東京	32%	京都	45%	京都	37%	京都	32%	富士山	43%
4位	大阪	37%	京都	31%	大阪	43%	沖縄	37%	北海道	32%	大阪	39%
5位	京都	35%	大阪	29%	富士山	42%	東京	36%	大阪	31%	京都	36%

出典:株式会社日本政策投資銀行北海道支店「DBJ・JTBF アジア・欧米豪 北海道観光に関する訪日外国人旅行者の意向調査(2018年度版)」



出典:北海道「北海道観光入込客数調査報告書」から北海道局作成

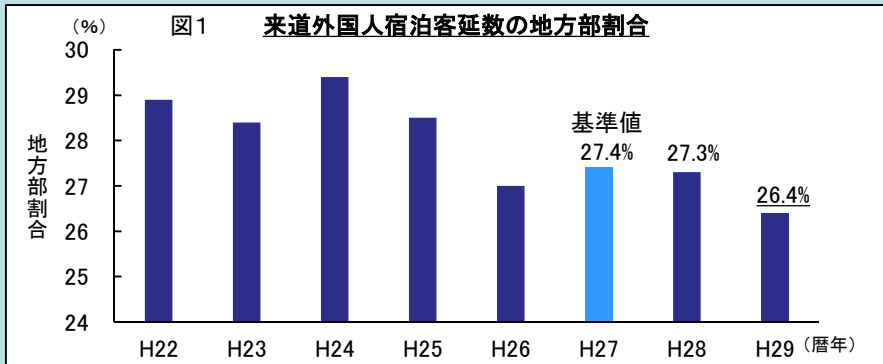
注:三大都市圏とは、「東京、神奈川、千葉、埼玉、愛知、大阪、京都、兵庫」の8都府県をいう。
出典:観光庁「宿泊旅行統計調査」

3 外国人宿泊客延数の地方部^(*)割合

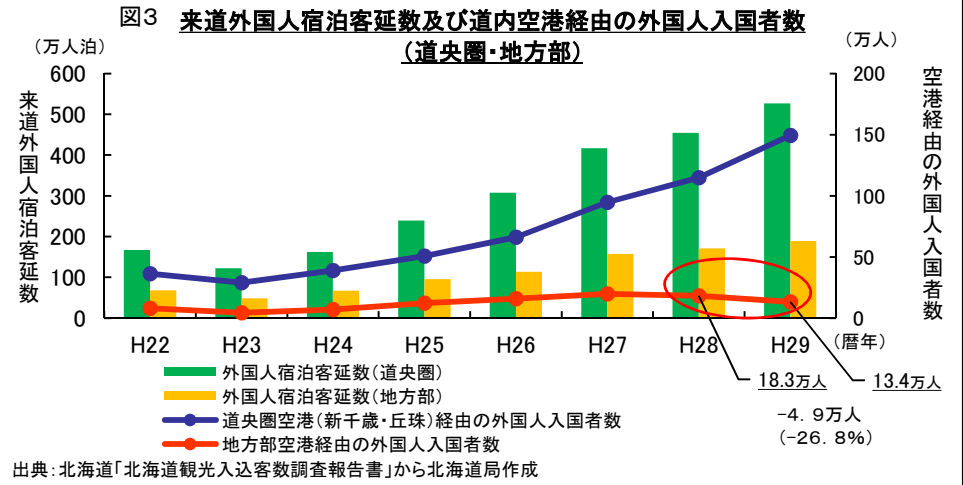
* 北海道内の道南、道北、オホーツク、十勝、釧路・根室の5つの圏域。

- 平成29年の来道外国人宿泊客延数の地方部割合は、前年の27.3%から0.9ポイント減の26.4%となっている。
- 地方部における来道外国人宿泊客延数の伸び率を見ると、前年の171万人泊から18万人泊(10.5%)増の189万人泊となっているのに対し、道央圏は、前年の455万人泊から72万人泊(15.8%)増の527万人泊となっており、道央圏の伸び率が地方部の伸び率を上回っている。
- (参考) ・ 地方部空港経由の外国人入国者数の推移を見ると、平成29年は平成28年と比較し26.8%減少しており、国際定期便数の減少等が影響したものと考えられる。
- ・ 来道外国人宿泊客延数(地方部)の国別内訳を見ると、台湾、シンガポール、香港といった国・地域別総人口に占める来道旅行者比率が高い国・地域が上位となっている。

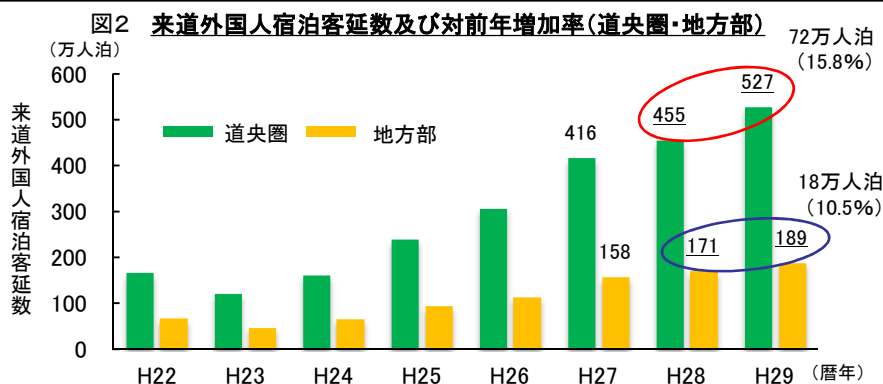
【平成27年】 27.4% → 【平成29年】 26.4% → 目標【令和2年】 36%



出典:北海道「北海道観光入込客数調査報告書」から北海道局作成

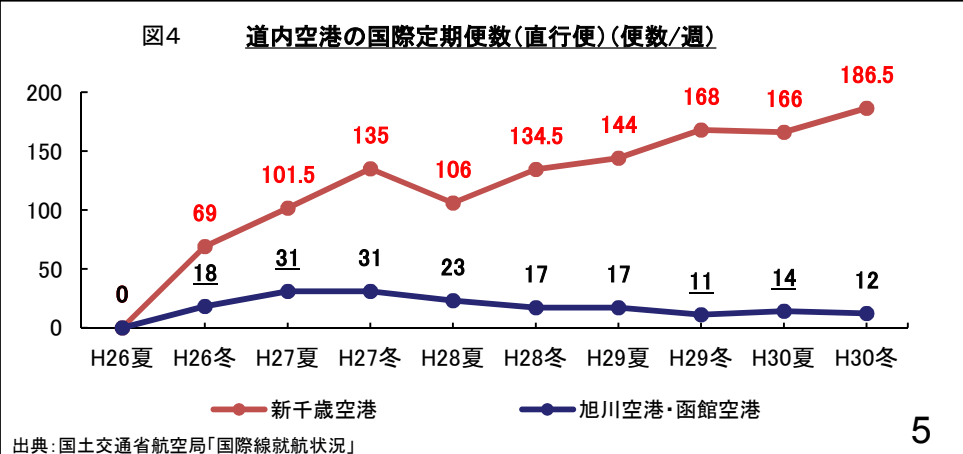


出典:北海道「北海道観光入込客数調査報告書」から北海道局作成



注:()は、対前年増加率を示す。

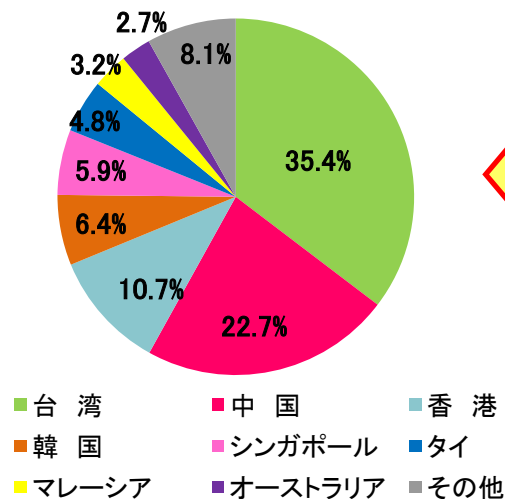
出典:北海道「北海道観光入込客数調査報告書」から北海道局作成



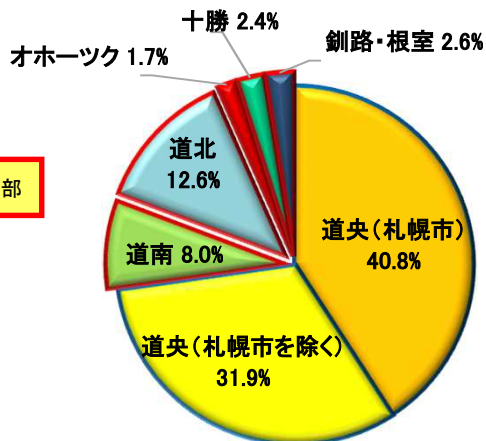
出典:国土交通省航空局「国際線就航状況」

(参考:モニタリング指標等)

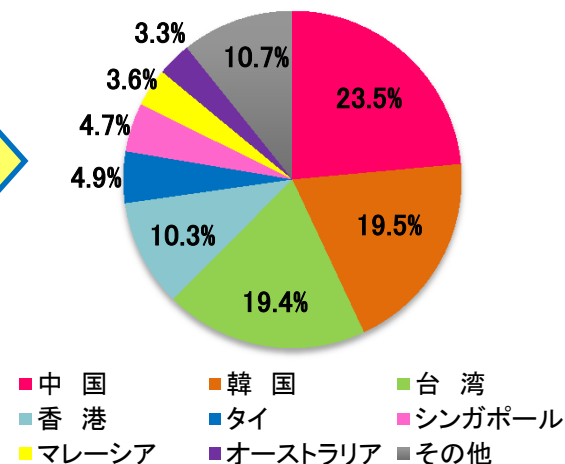
図5 平成29年度来道外国人宿泊客延数
(地方部)の国・地域別割合



平成29年度来道外国人宿泊客延数
の圏域別割合(道内6圏域)



平成29年度来道外国人宿泊客延数
(道央圏)の国・地域別割合

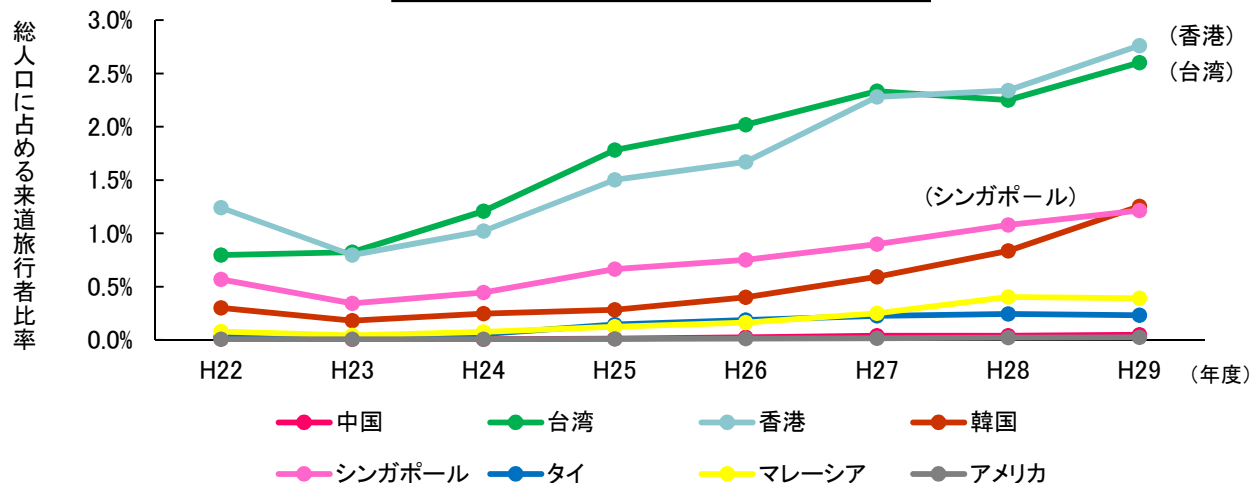


出典:北海道「北海道観光入込客数調査報告書」

表 地方部割合上位国・地域(アジア7カ国・地域)
(平成29年度)

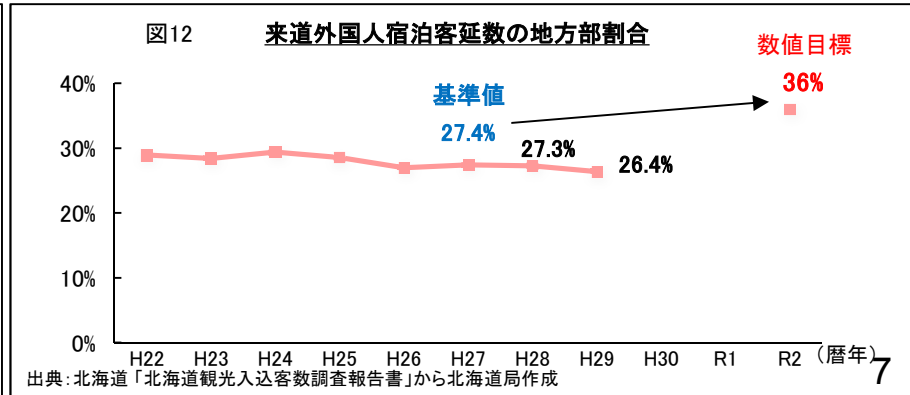
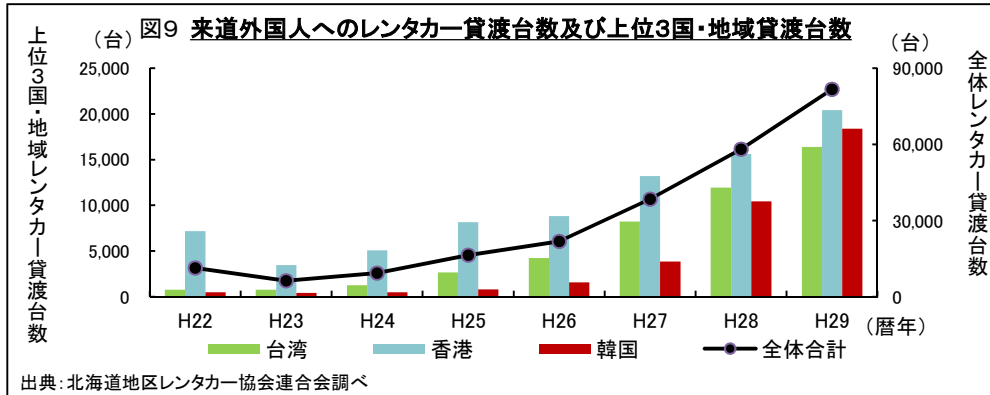
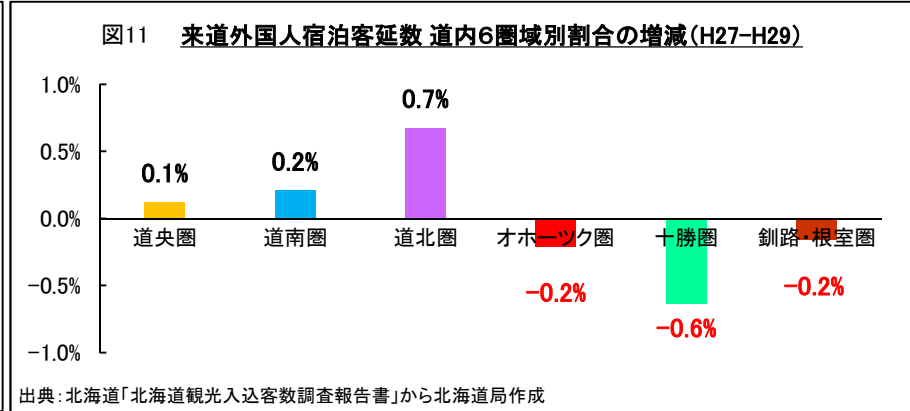
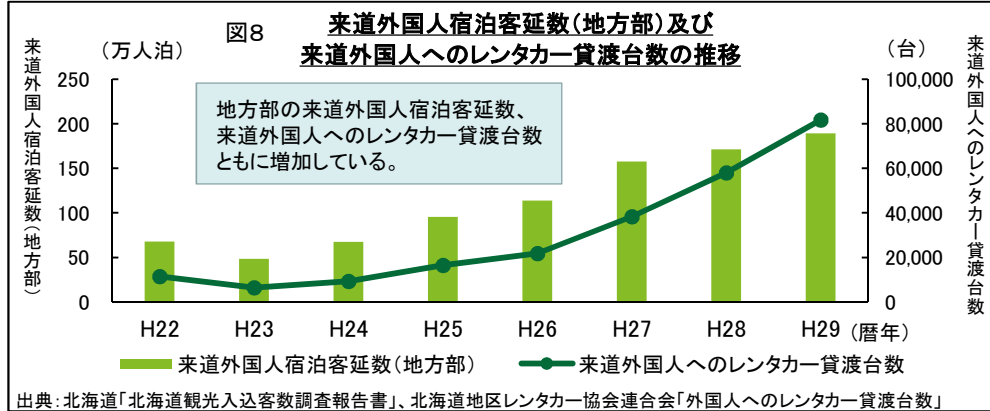
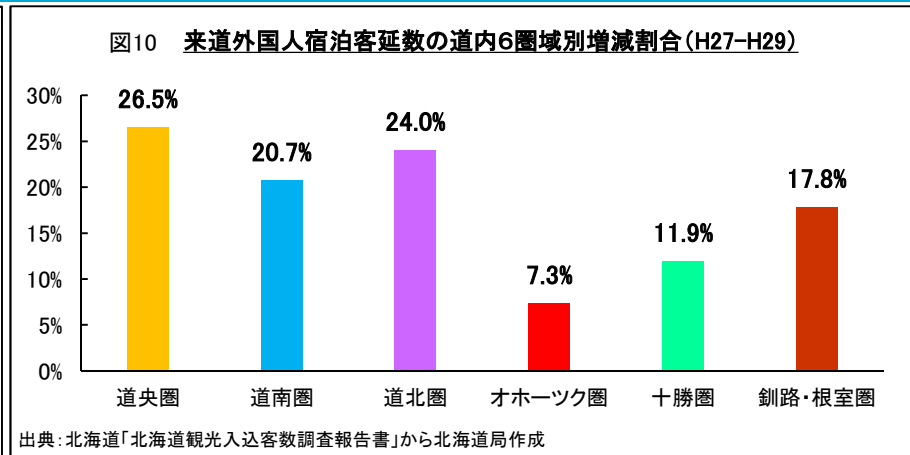
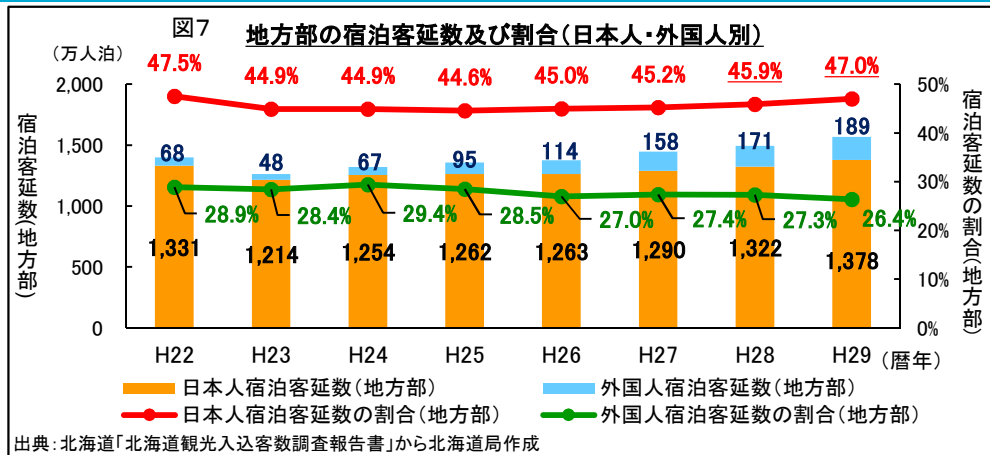
国・地域	地方部割合	宿泊客延数 (人泊)
台湾	40.5%	729,648
シンガポール	32.1%	122,222
香港	28.1%	221,064
タイ	26.8%	99,753
中国	26.6%	468,722
マレーシア	24.8%	66,305
韓国	10.9%	131,784

図6 国・地域別総人口に占める来道旅行者比率



注:来道外国人旅行者数 図6と同じグラフに国・地域名を記載
出典:総務省「世界人口の推移」、北海道「訪日外国人来道者(実人数)の推移」から北海道局作成

(参考:モニタリング指標等)

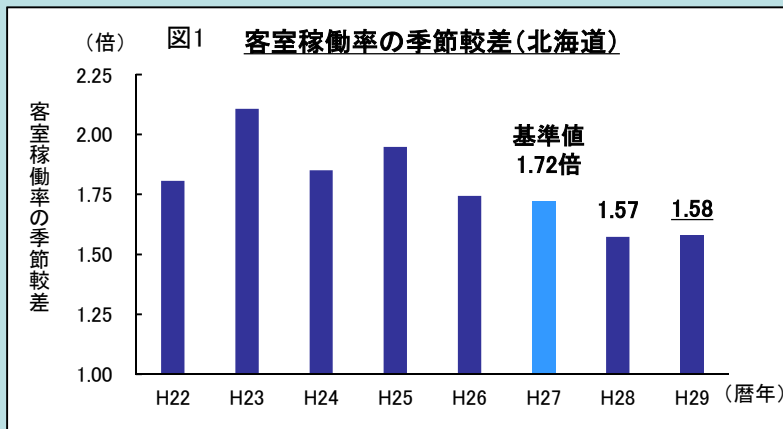


4 客室稼働率の季節較差 (*)

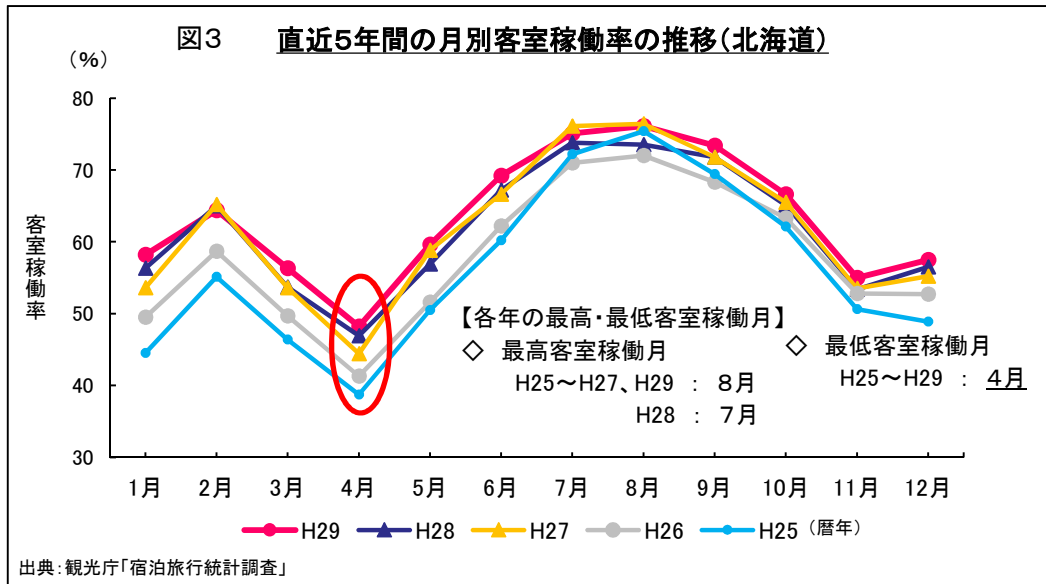
* 季節較差 = 最高客室稼働率 / 最低客室稼働率

- 平成29年の北海道における客室稼働率の季節較差は、前年の1.57倍から横ばいの1.58倍となった。
- 北海道における過去5年間の月別客室稼働率の推移を見ると、いずれの年も最も客室稼働率が低い月(最低客室稼働月)は4月であったが、当該4月の客室稼働率は、上昇傾向で推移している。
- (参考) ・ 北海道における日本人、外国人の月別宿泊客延数を見ると、共に4月に少なくなる傾向がある。
- ・ 北海道における最低客室稼働月(4月)の宿泊客延数に占める日本人及び外国人の割合の推移を見ると、外国人の割合が徐々に高まってきている。

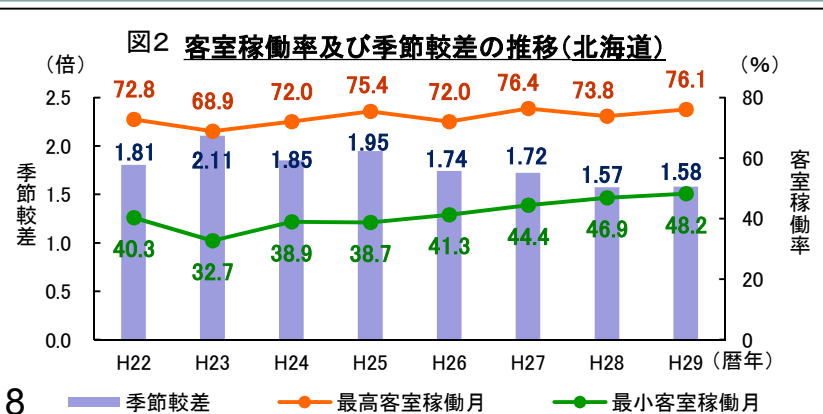
【平成27年】 1.72倍 → 【平成29年】 1.58倍 → 目標【令和2年】 1.4倍



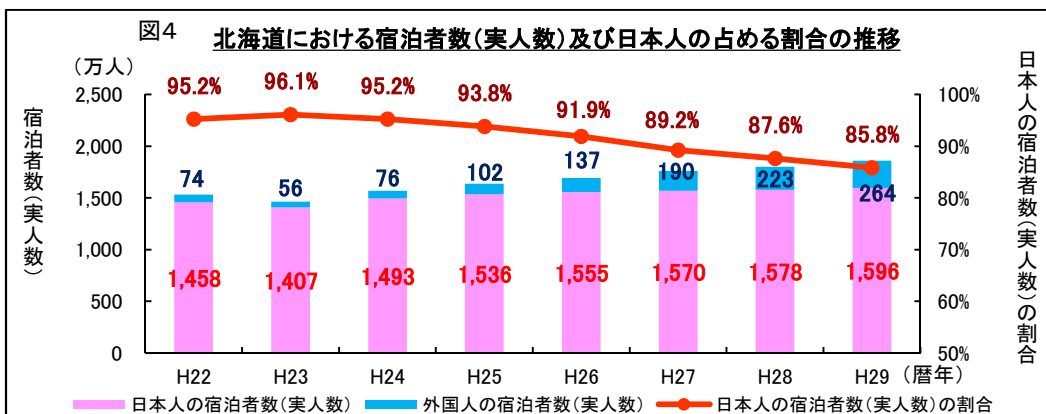
出典: 観光庁「宿泊旅行統計調査」から北海道局作成



出典: 観光庁「宿泊旅行統計調査」



出典: 観光庁「宿泊旅行統計調査」から北海道局作成

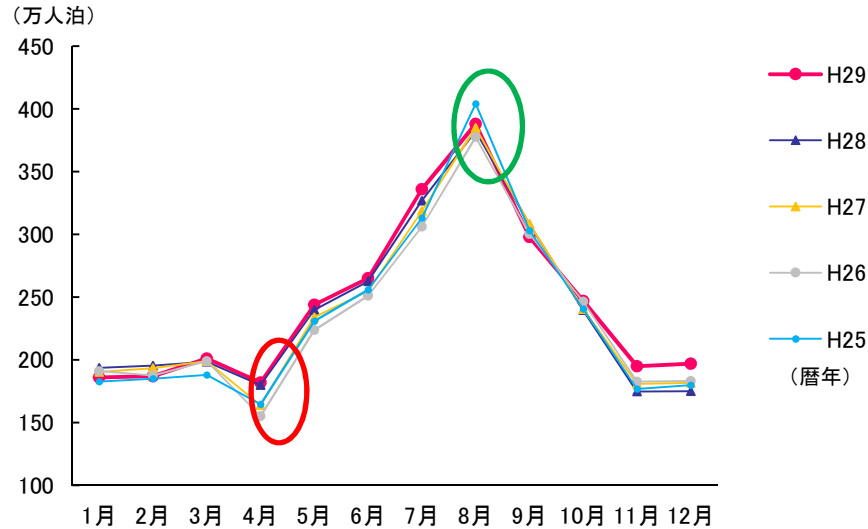


出典: 観光庁「観光入込客統計」

日本人の宿泊者数(実人数)の割合

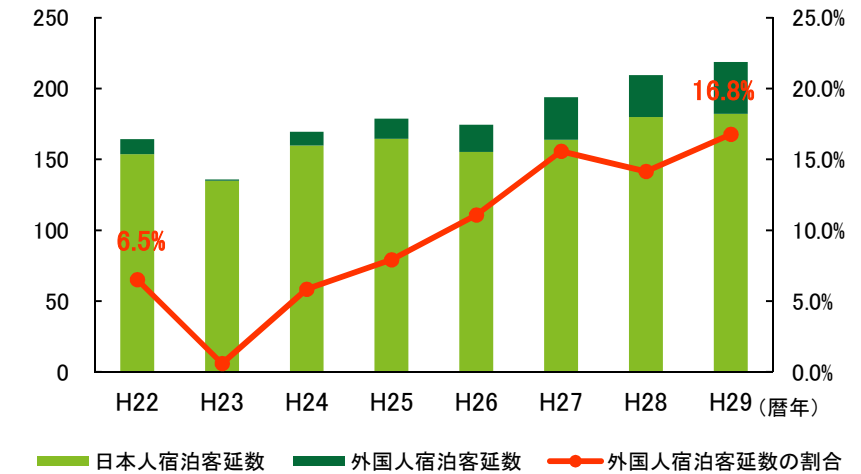
(参考:モニタリング指標等)

図5 月別日本人宿泊客延数(北海道)



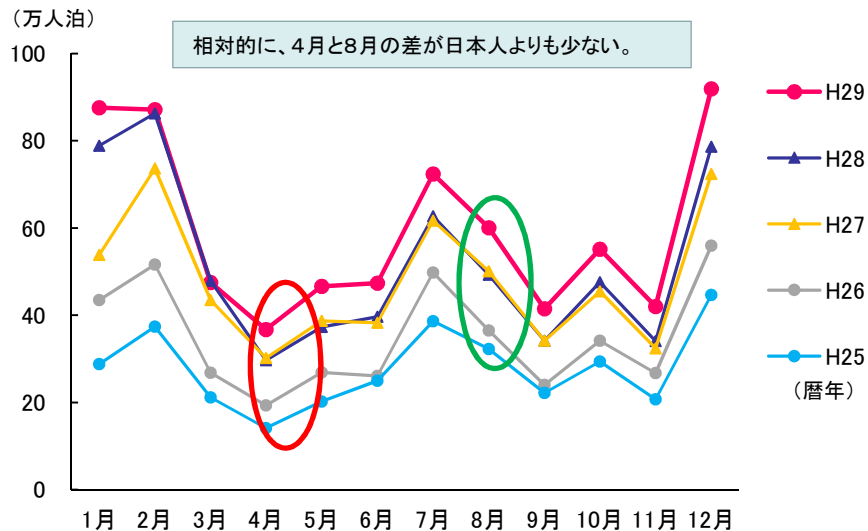
出典:北海道「北海道観光入込客数調査報告書」

図7 各年最低客室稼働月(4月)の宿泊客延数(北海道)に占める来道外国人宿泊客延数割合の推移



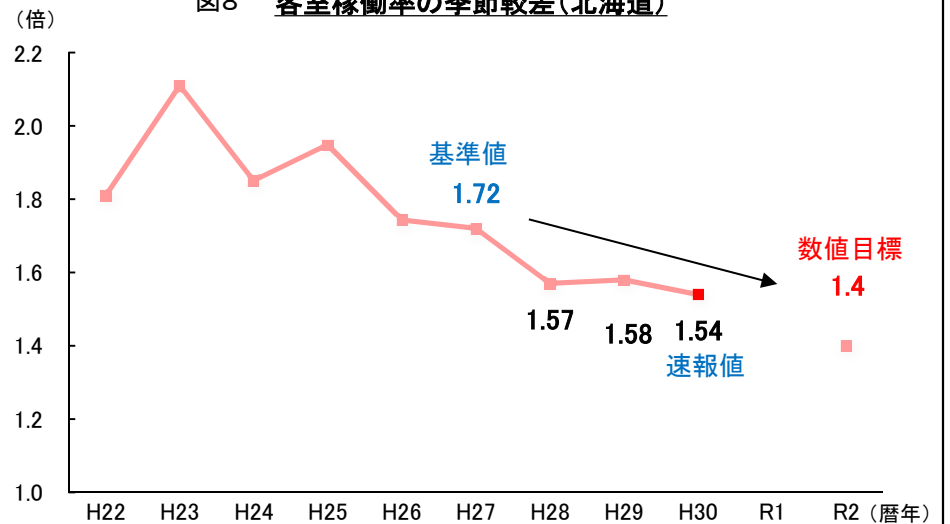
出典:北海道「北海道観光入込客数調査報告書」から北海道局作成

図6 月別来道外国人宿泊客延数



出典:北海道「北海道観光入込客数調査報告書」

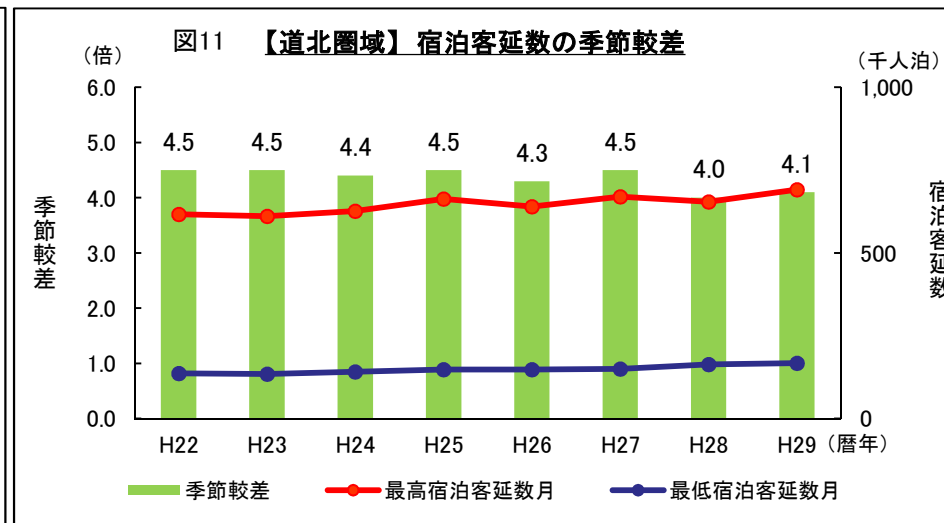
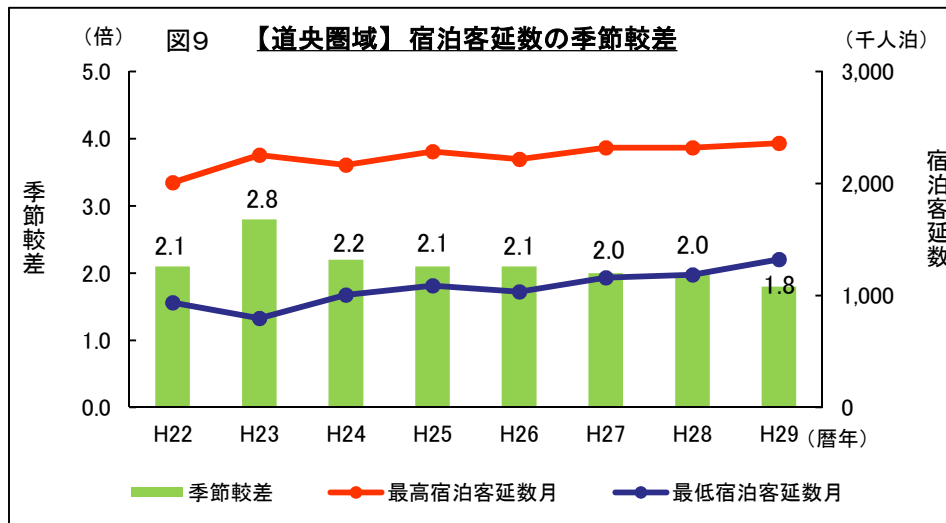
図8 客室稼働率の季節較差(北海道)



出典:観光庁「宿泊旅行統計調査」から北海道局作成

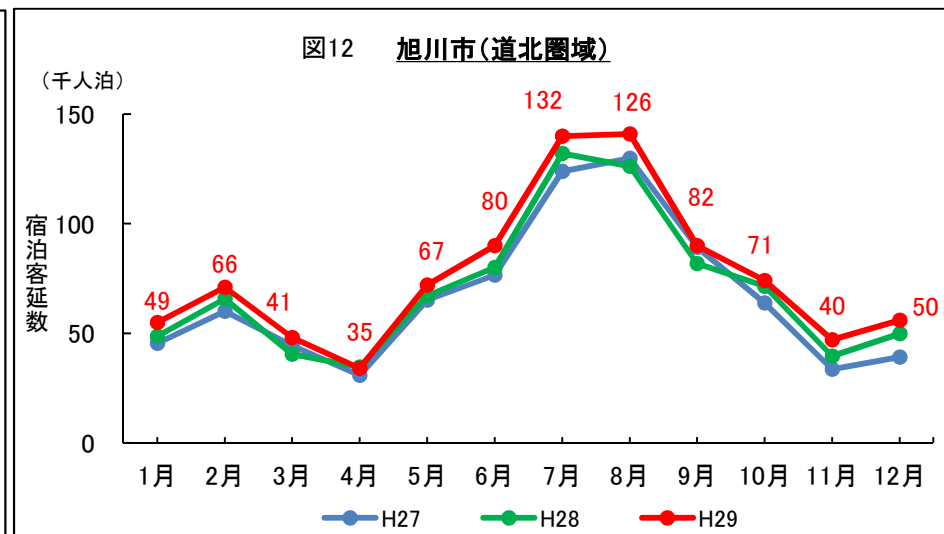
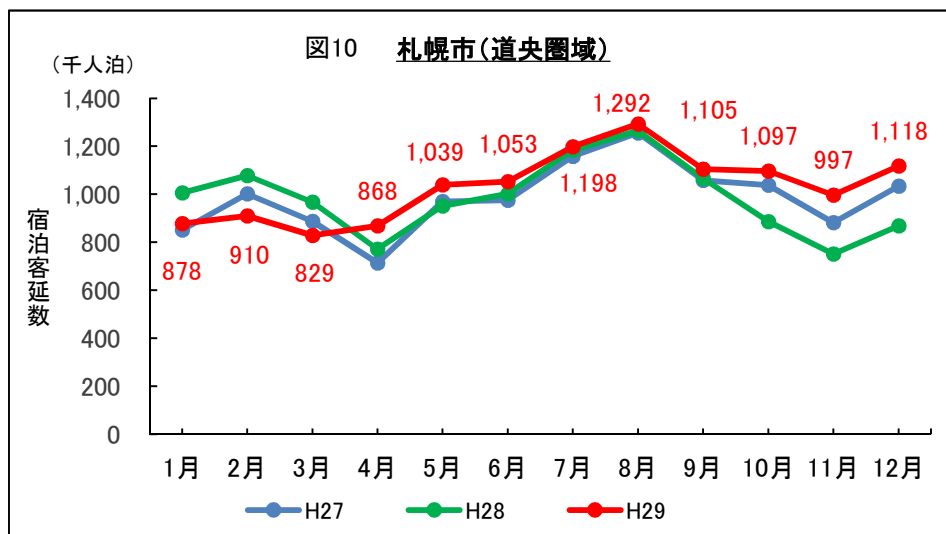
(参考:モニタリング指標等)

◇ 月別宿泊客延数の季節較差(道内6圏域のうち、季節較差の小さい圏域・大きい圏域等。)



注：圏域別の季節較差を比較するため、宿泊客延数の季節較差の推移を算出している。
(※ 客室稼働率の季節較差とは異なる。)

出典：北海道「北海道観光入込客数調査報告書」から北海道局作成



(参考:モニタリング指標等)

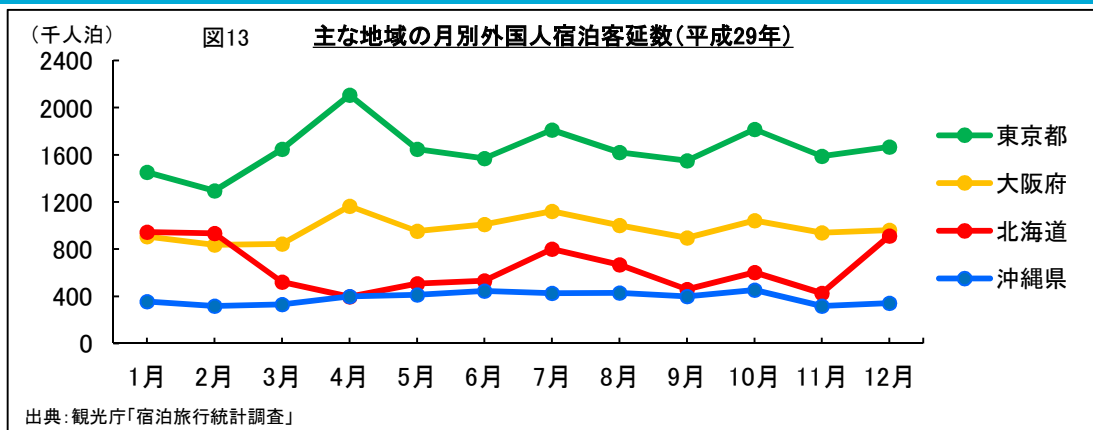


表 外国人観光客の北海道旅行の目的(平成28年度)
※ 複数回答形式

1	自然観賞	79.4%
2	都市観光	62.3%
3	温泉・保養	53.4%
4	特産品の買物・飲食	49.4%
5	ショッピング	40.1%
6	花の名所巡り	26.0%
7	動物園・水族館	13.9%
8	道の駅巡り	7.1%
9	スキー・スノーボード	6.7%
10	産業遺産・工場見学	4.6%

出典:北海道「北海道観光の現況2017」

図14 来道外国人旅行者数上位国・地域の2019年休日・祝祭日カレンダー

●・・・連続しない祝祭日 ↔・・・連続する休日・祝祭日 ↔・・・学校の休暇(夏期・冬期等)

国・地域名	1月				2月				3月				4月				5月				6月					
	第1週	第2週	第3週	第4週	第1週	第2週	第3週	第4週	第1週	第2週	第3週	第4週	第1週	第2週	第3週	第4週	第1週	第2週	第3週	第4週	第1週	第2週	第3週	第4週		
台湾	↔			↔	↔	↔		↔					↔	↔											↔	
中国	↔		↔	↔	↔	↔	↔	↔					↔	↔												↔
韓国	●			↔	↔	↔	↔	↔					↔	↔												●
香港	●			↔	↔	↔	↔	↔					↔	↔							●	↔				↔
マレーシア	●		↔	↔	↔	↔	↔	↔					↔	↔							●	↔				↔
シンガポール	↔				↔	↔							↔	↔							●	↔				↔

国・地域名	7月				8月				9月				10月				11月				12月					
	第1週	第2週	第3週	第4週	第1週	第2週	第3週	第4週	第1週	第2週	第3週	第4週	第1週	第2週	第3週	第4週	第1週	第2週	第3週	第4週	第1週	第2週	第3週	第4週		
台湾	↔																									
中国																										↔
韓国																										●
香港	↔																									↔
マレーシア																										●
シンガポール																										●

注1:平成30年7月時点。

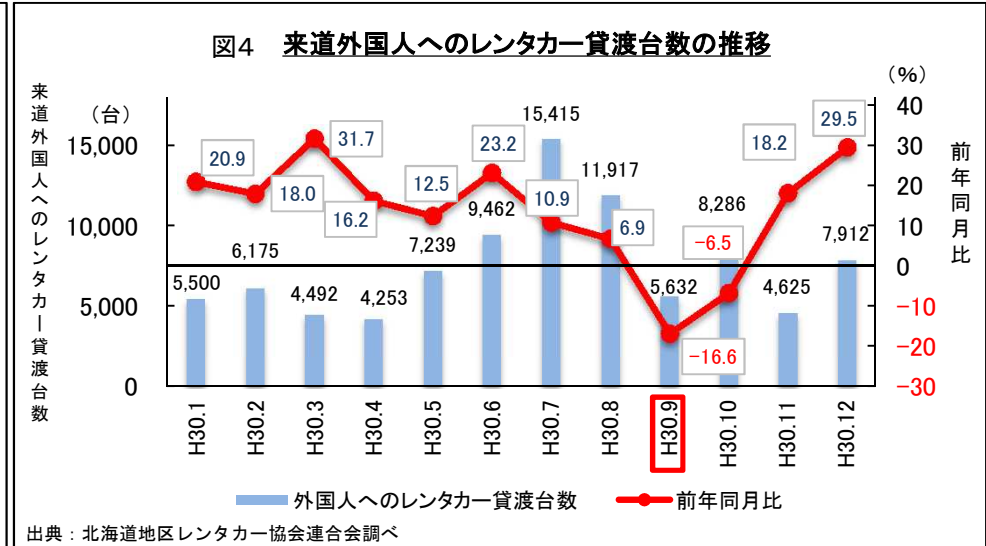
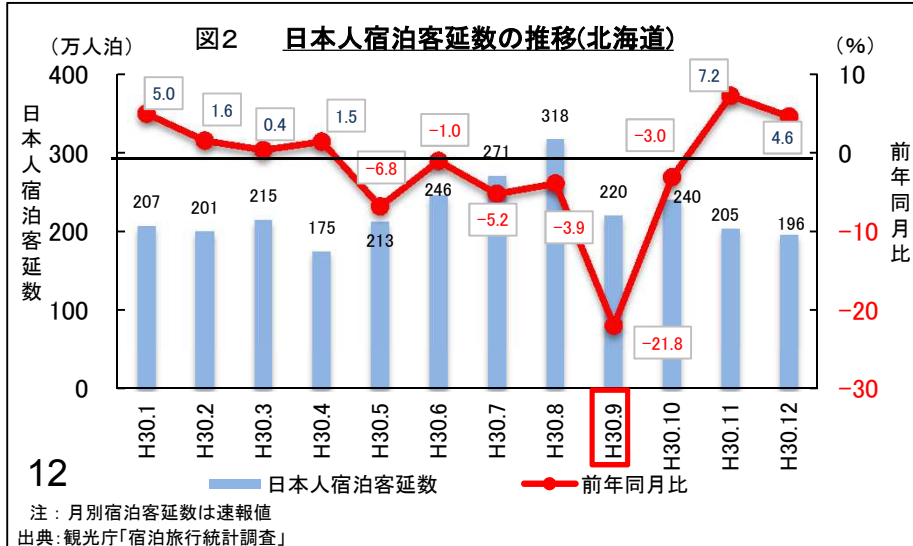
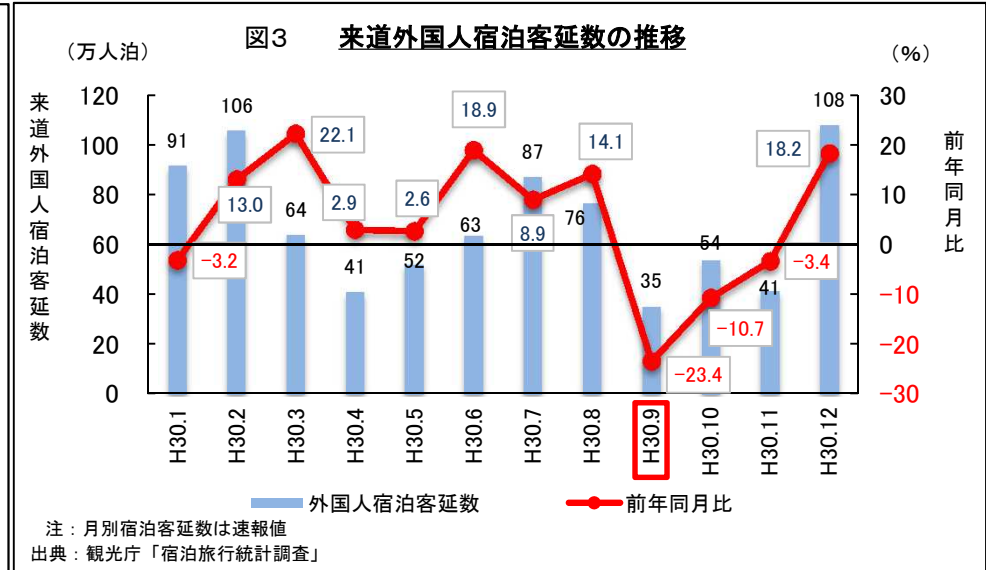
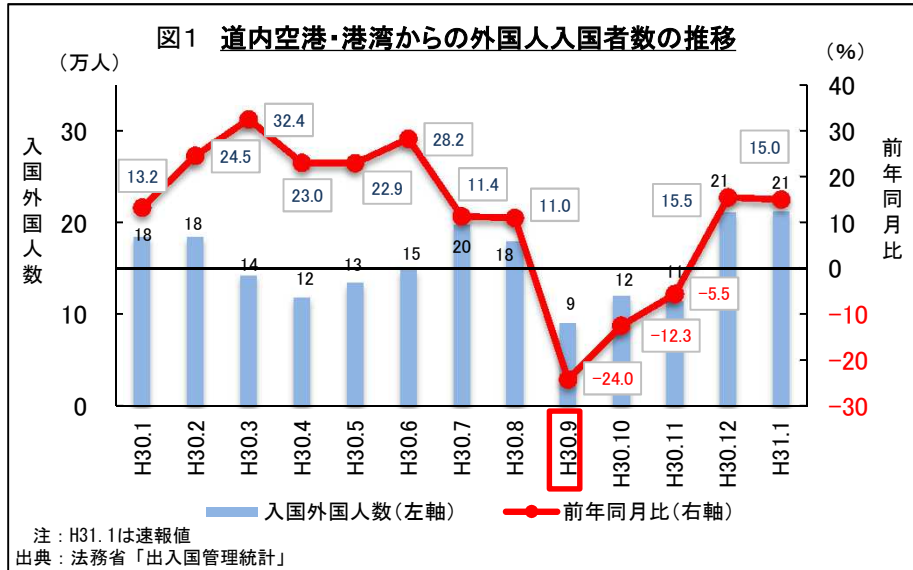
注2:各国・地域、週休2日制(土・日)を前提として作成。

■の月は、連続する休日・祝祭日が少ない月。

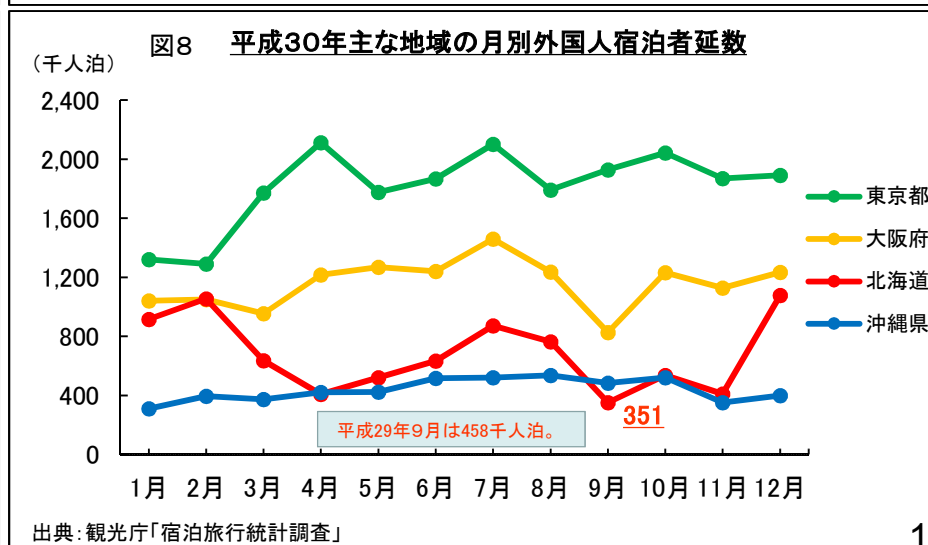
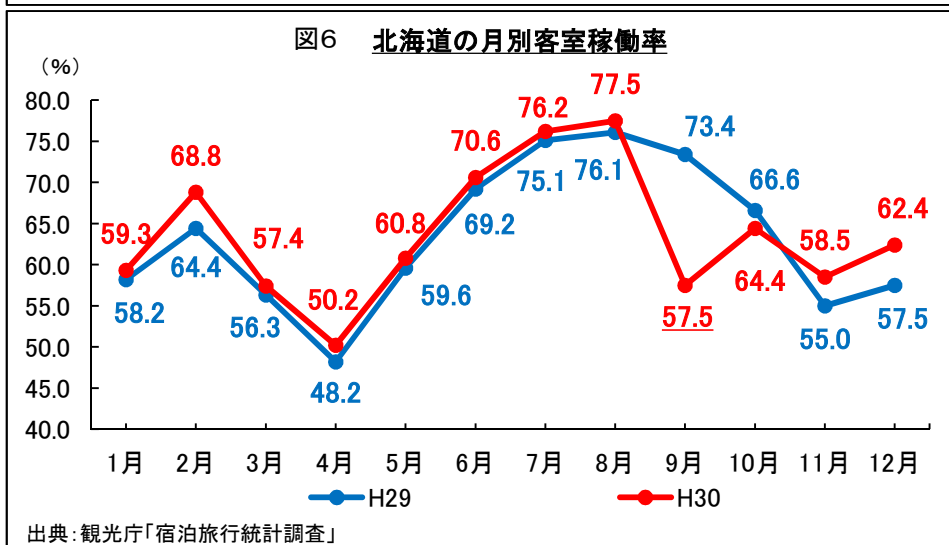
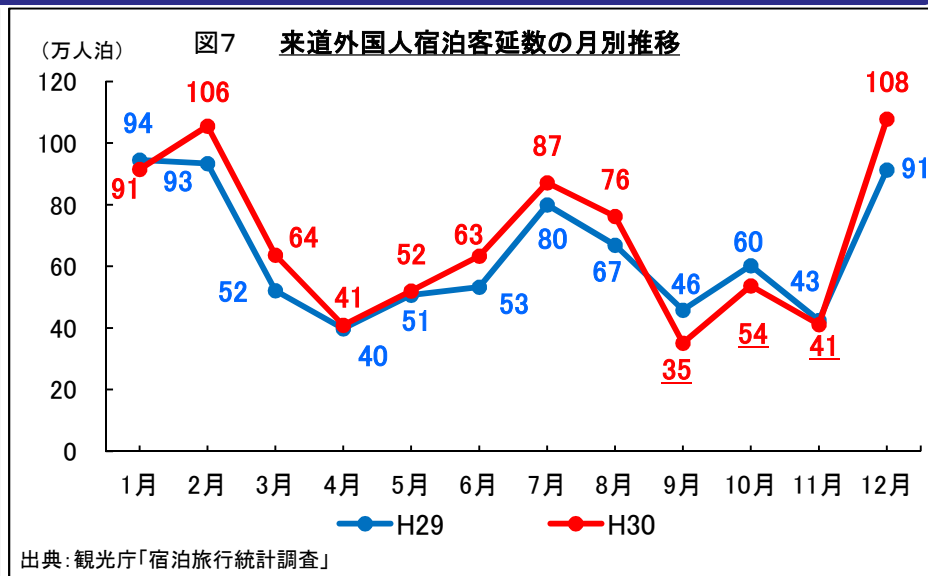
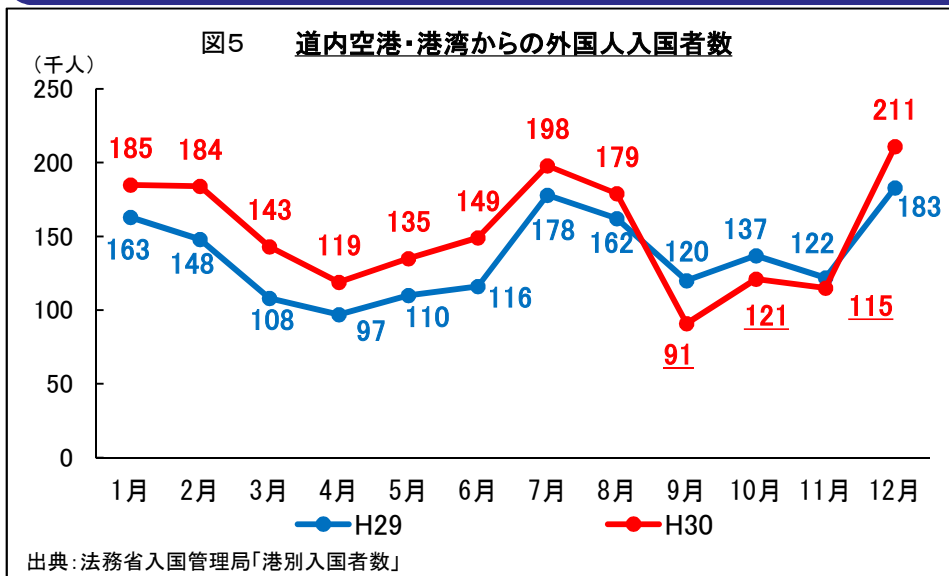
出典:日本政府観光局「訪日旅行データハンドブック2018年」から北海道局作成

5 平成30年北海道胆振東部地震の観光への影響

- 北海道胆振東部地震が発生した平成30年9月における道内空港・港湾から入国した外国人入国者数を見ると、前年に比べ24.0%減少した。
- 同月の北海道における日本人及び外国人宿泊客延数を見ると、どちらも前年に比べ20%以上減少した。
- 同月の来道外国人へのレンタカー貸渡台数は、前年に比べ16.6%減少した。



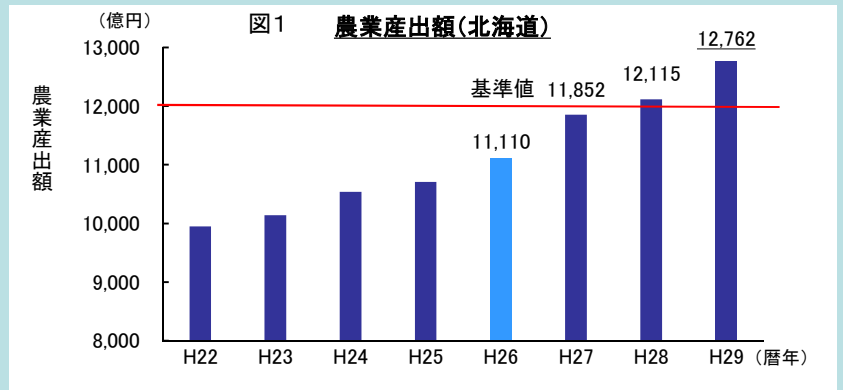
- 平成30年における道内空港・港湾から入国した月別の外国人入国者数及び来道外国人宿泊客延数の推移を見ると、地震が発生するまでは概ね前年を上回って推移していたが、平成30年9～11月は前年を下回った。
- 平成30年9月の来道外国人宿泊客延数は、前年同月の458千人泊から107千人泊減少し、351千人泊となった。



6 農業産出額

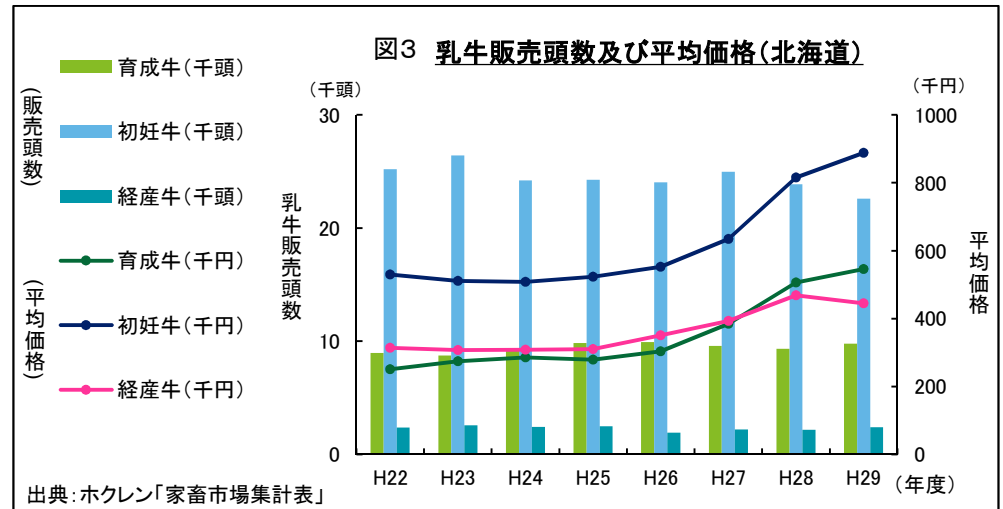
○ 平成29年の農業産出額(北海道)は、前年の12,115億円から647億円増の12,762億円となり、前年に引き続き目標値を上回っている(647億円増の内訳は、耕種部門が353億円(6.9%)、畜産部門が293億円(4.2%)の増。)
 (参考) 農業産出額(畜産部門)が増加している要因としては、乳牛の販売頭数及び生乳生産量がほぼ横ばいで推移していること等から、乳牛等の価格上昇の影響が大きいと考えられる。また、耕種部門が増加している要因についても、農業産出額に関する目標を達成していない平成27年と比較し、多くの品目において生産量が増加していないことから、価格上昇の影響が大きいと考えられる。

【平成26年】 11,110億円 → 【平成29年】 12,762億円 → 目標【令和7年】 12,000億円

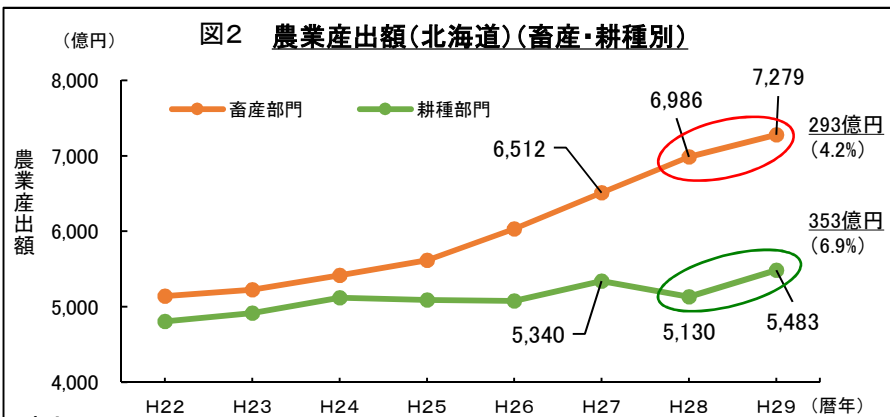


出典: 農林水産省「生産農業所得統計」

乳牛の価格が上昇



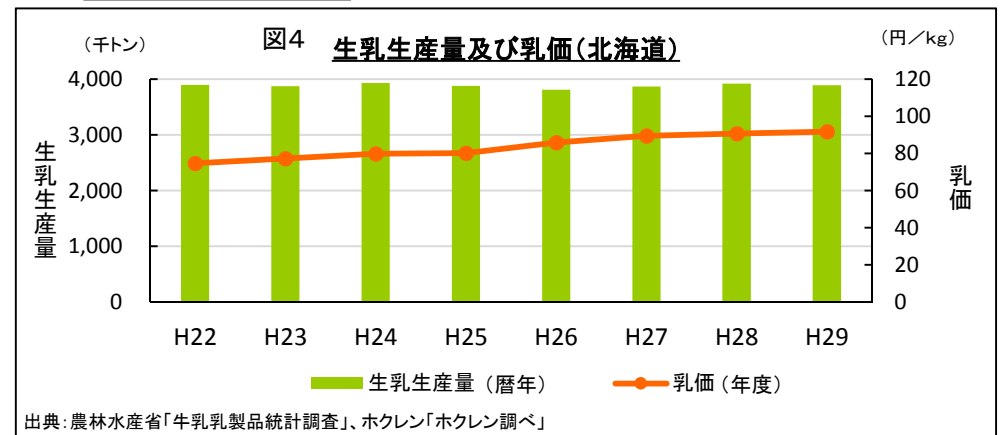
出典: ホクレン「家畜市場集計表」



14

出典: 農林水産省「生産農業所得統計」

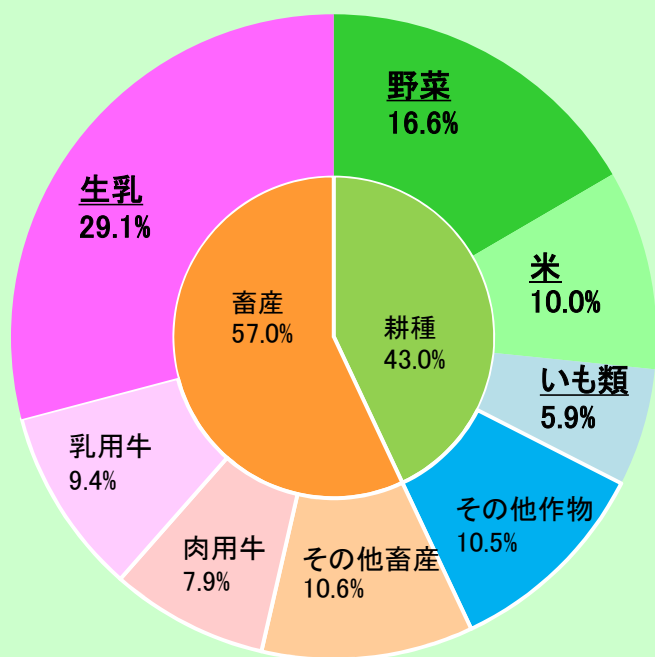
生乳の価格は近年上昇



出典: 農林水産省「牛乳乳製品統計調査」、ホクレン「ホクレン調べ」

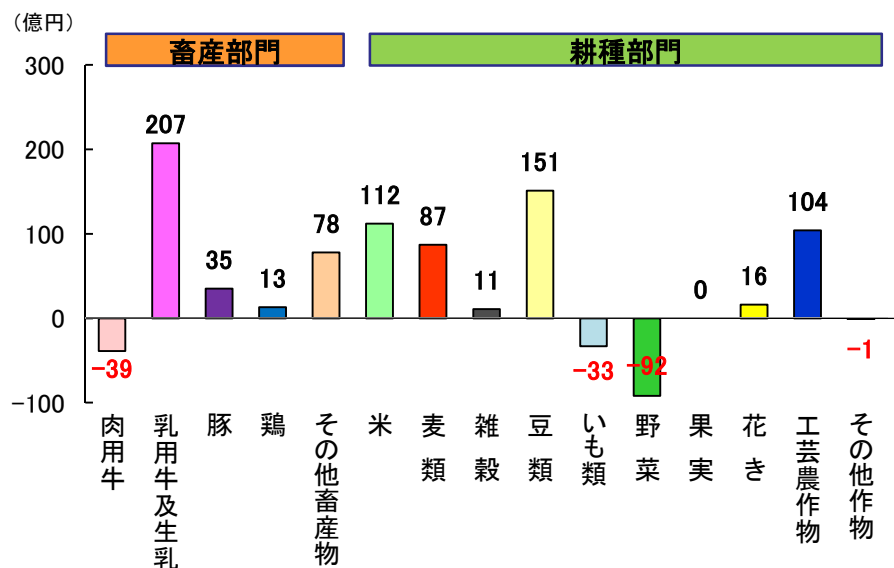
(参考:モニタリング指標等)

図5 平成29年農業産出額の内訳(北海道)



出典:農林水産省「生産農業所得統計」

図6 平成29年農業産出額(北海道)の対前年増減内訳(647億円)



出典:農林水産省「生産農業所得統計」

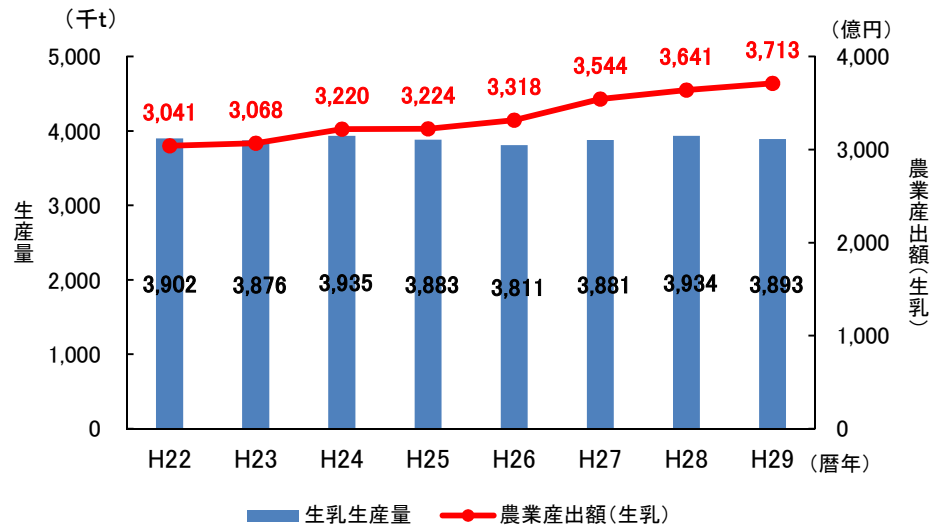
表 農業産出額及び生産量(北海道)の増減比

品目	増減比(%)	
	H29(対H27)	
	農業産出額	生産量
生乳	1.05 ↗	1.00 →
野菜	0.95 ↘	0.98 ↘
米	1.11 ↗	0.97 ↘
いも類	1.09 ↗	0.99 ↘

出典:農林水産省「生産農業所得統計」、「牛乳乳製品統計調査」、「作物統計調査」

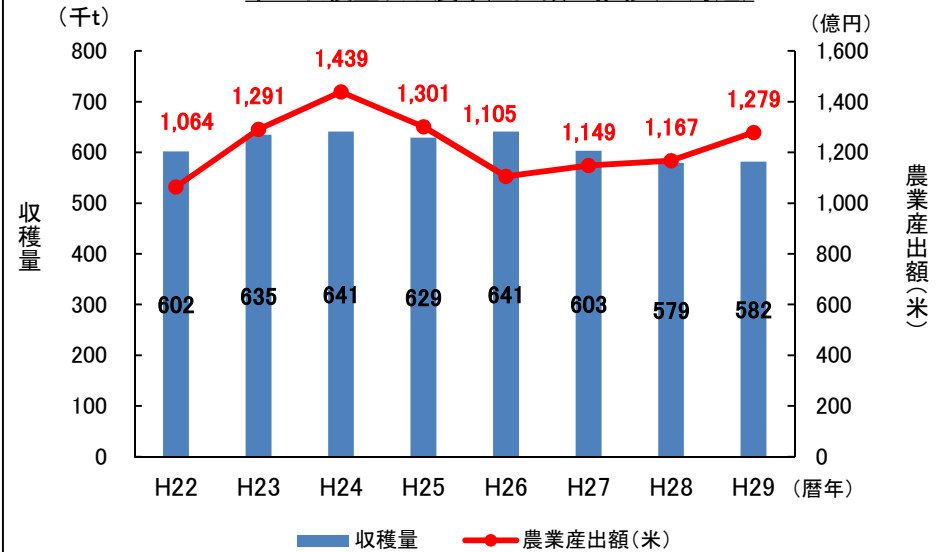
(参考:モニタリング指標等)

図7 生乳生産量及び農業産出額の推移(北海道)



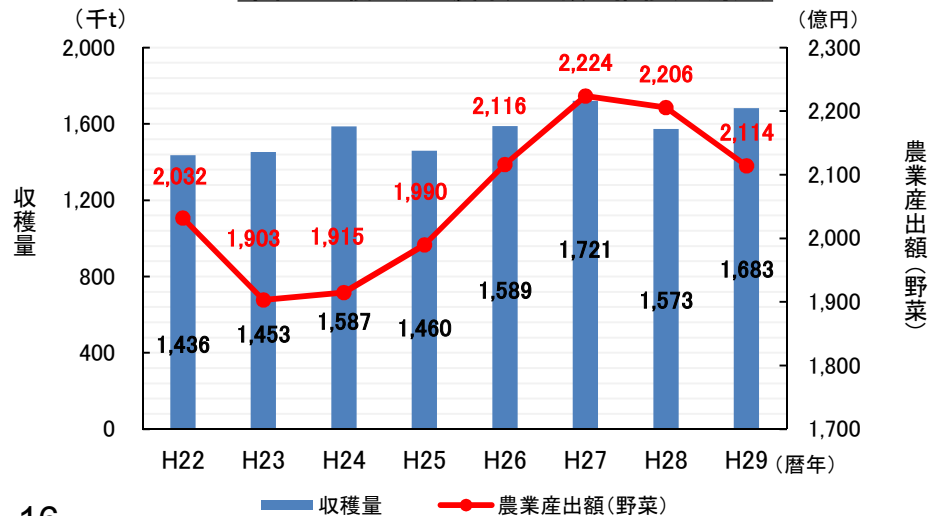
出典:農林水産省「生産農業所得統計」、「牛乳乳製品統計調査」

図9 米の収穫量及び農業産出額の推移(北海道)



出典:農林水産省「生産農業所得統計」、「作物統計調査」

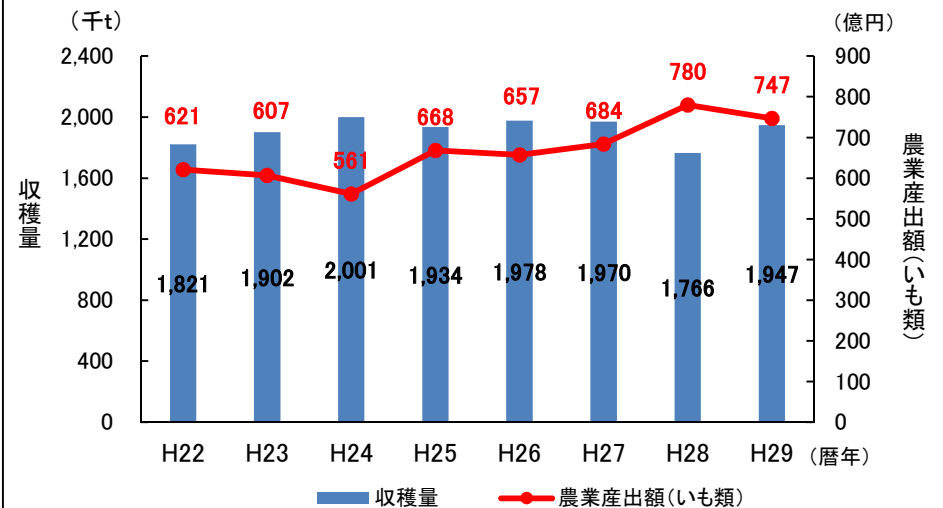
図8 野菜の収穫量及び農業産出額の推移(北海道)



16

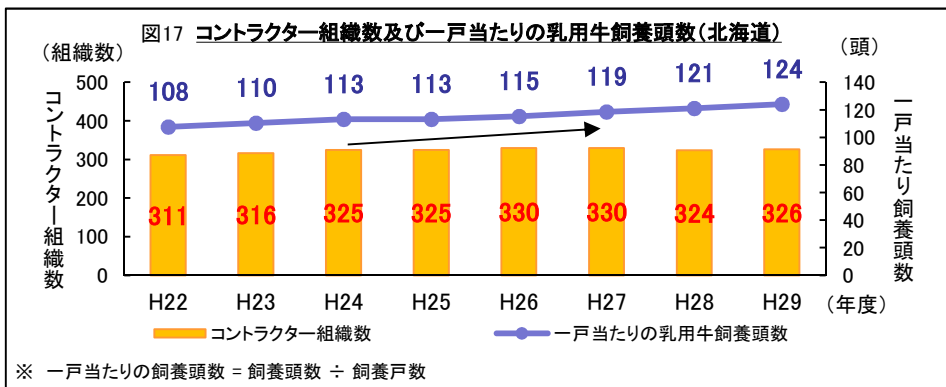
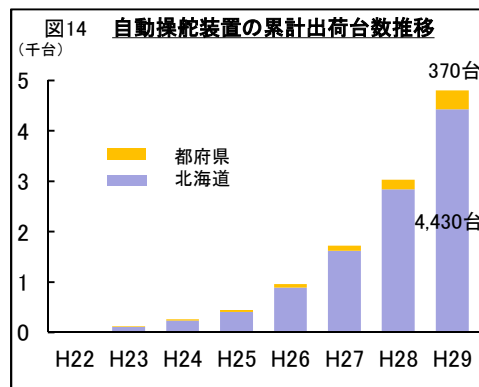
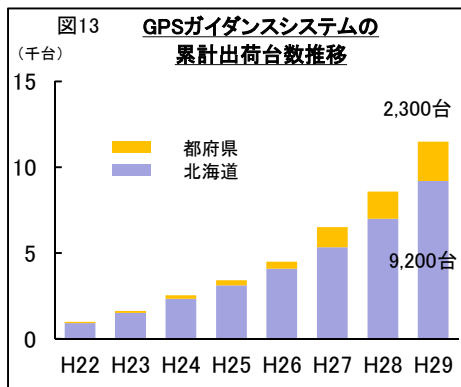
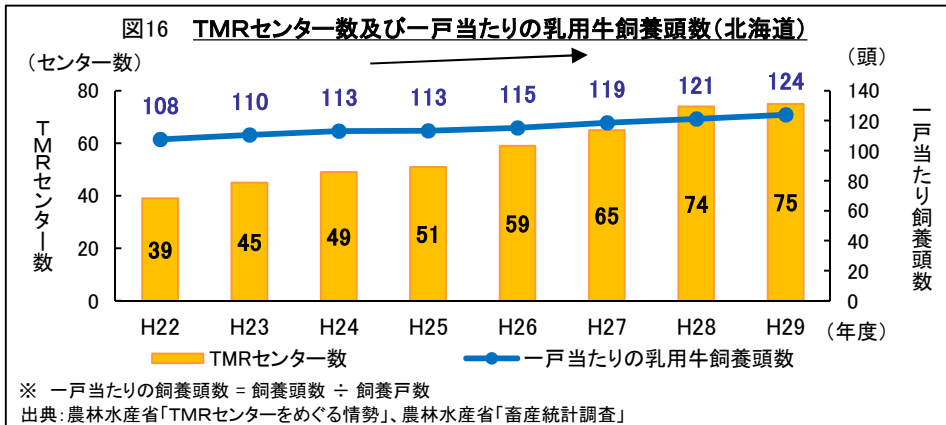
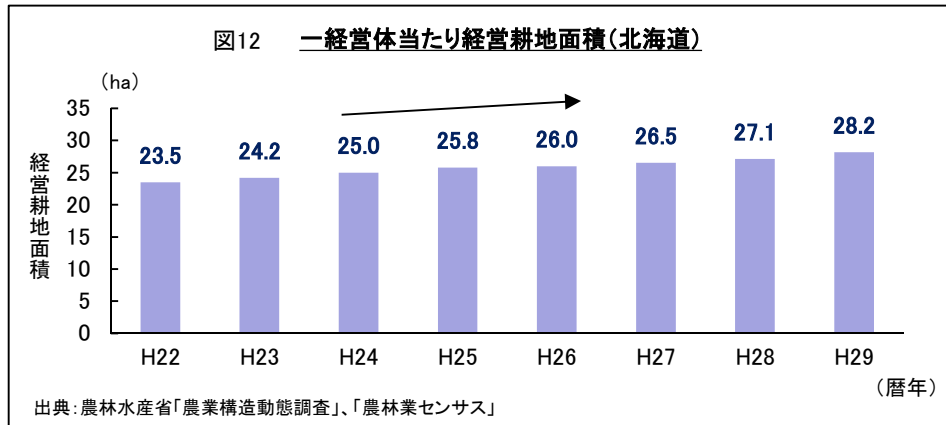
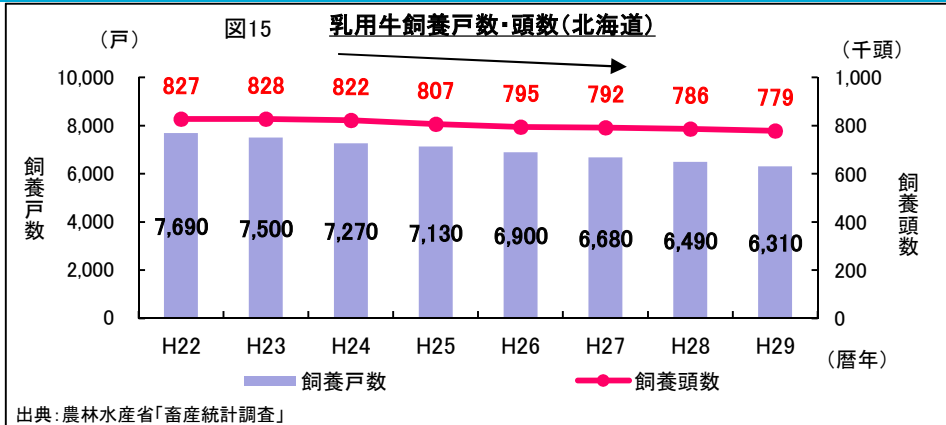
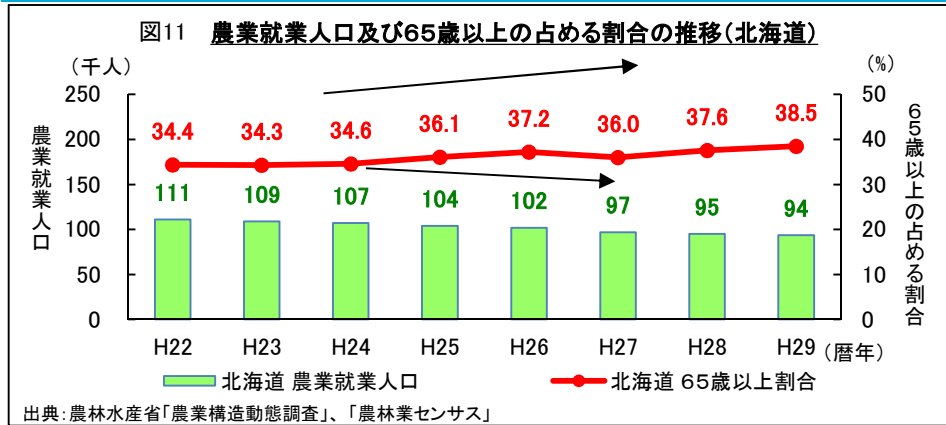
出典:農林水産省「生産農業所得統計」、「作物統計調査」

図10 いも類の収穫量及び農業産出額の推移(北海道)



出典:農林水産省「生産農業所得統計」、「作物統計調査」

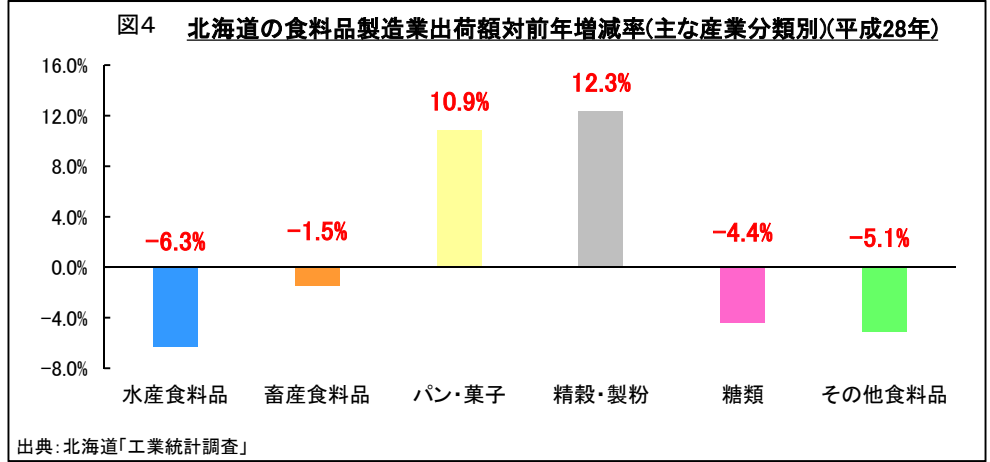
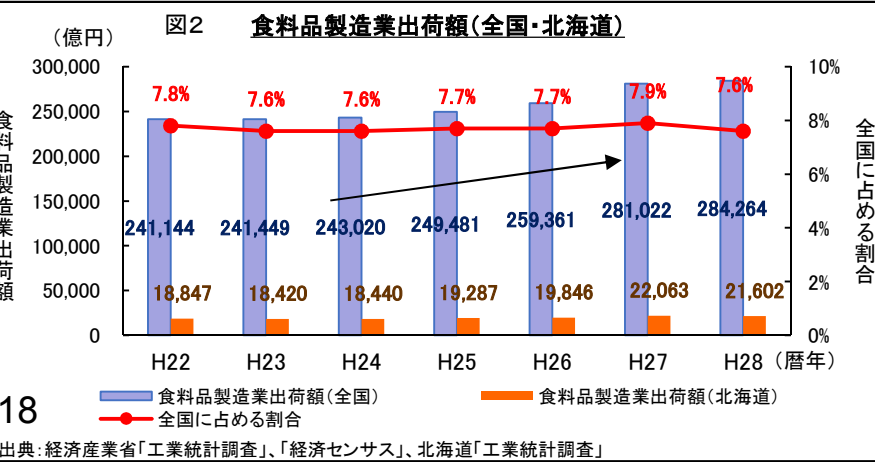
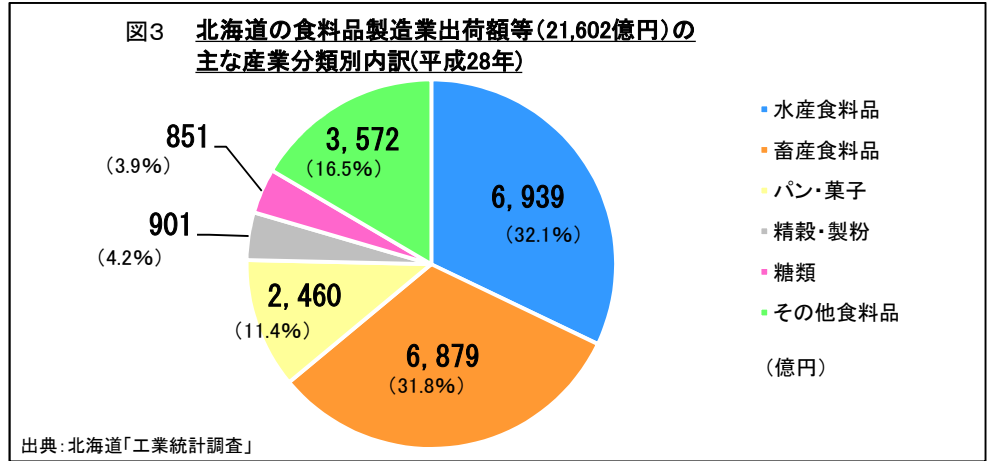
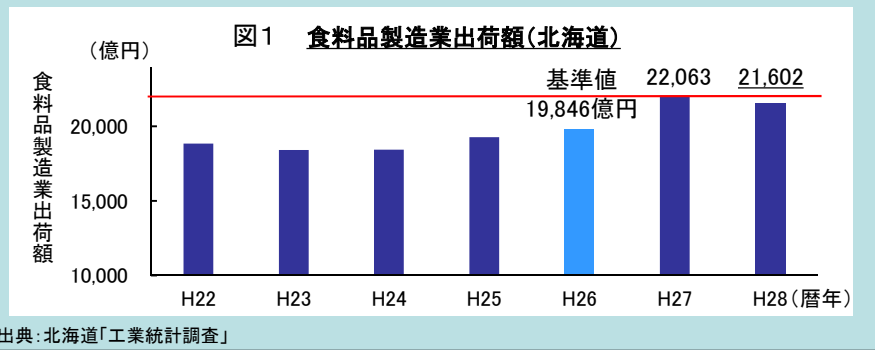
(参考:モニタリング指標等)



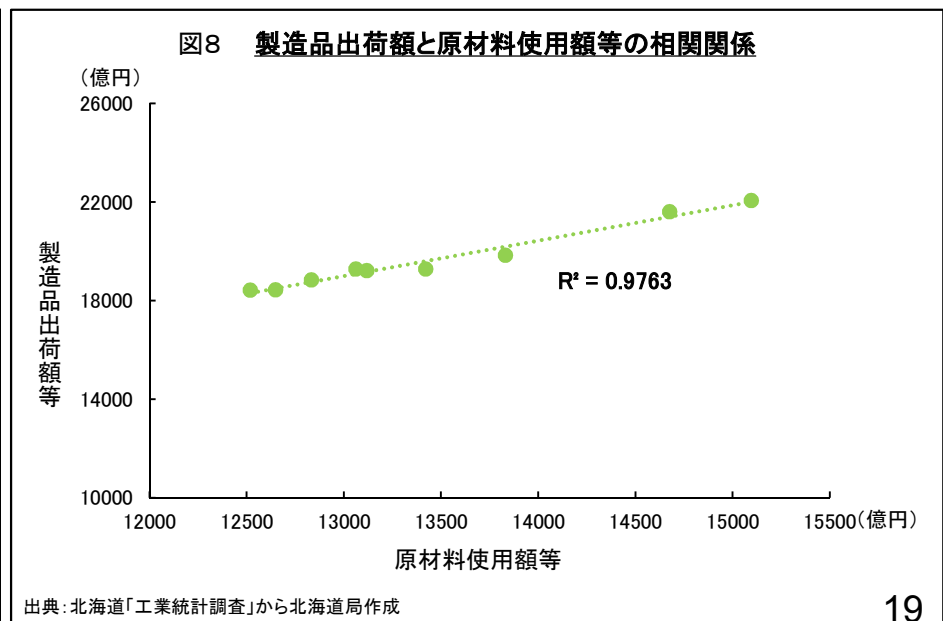
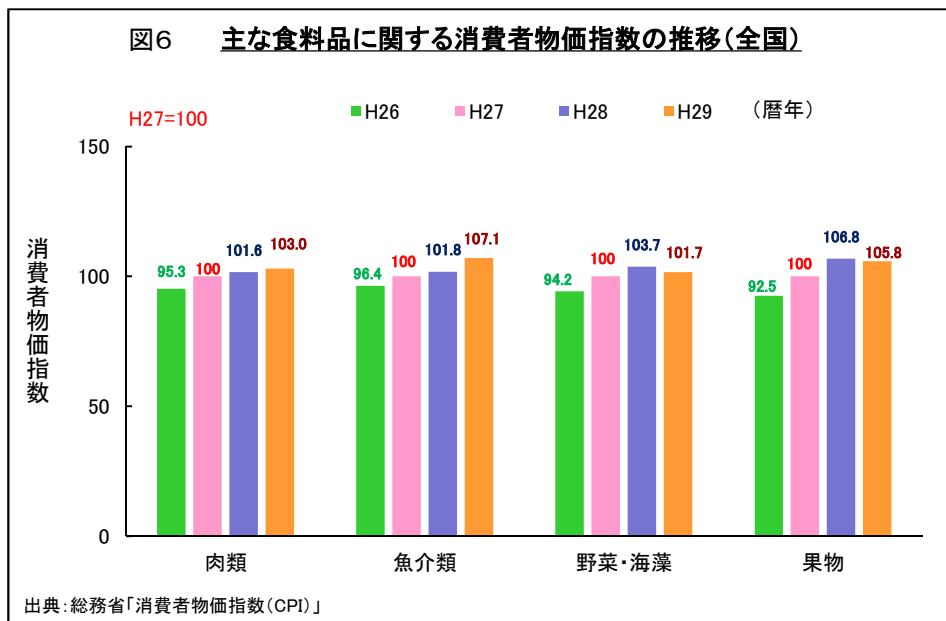
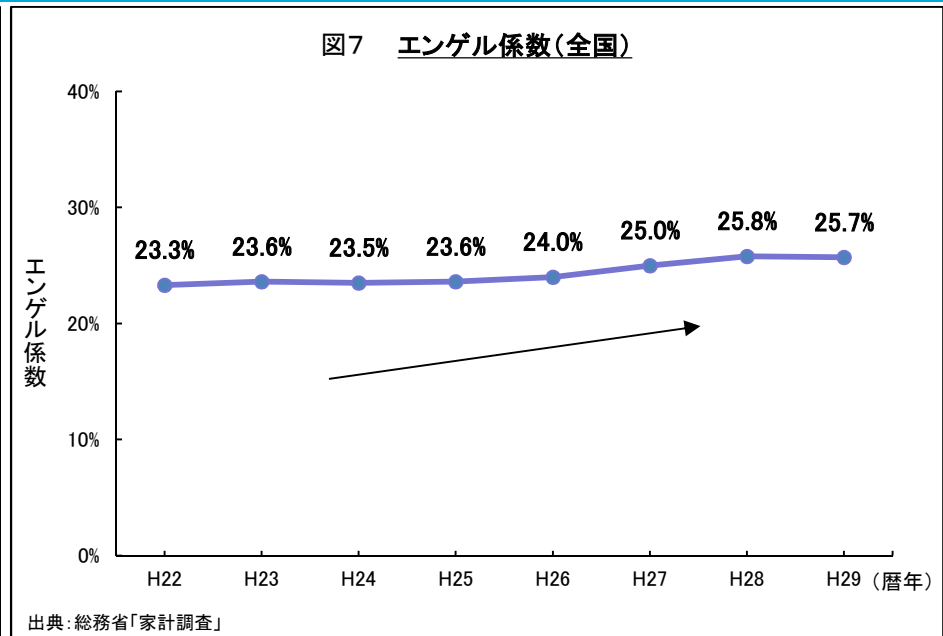
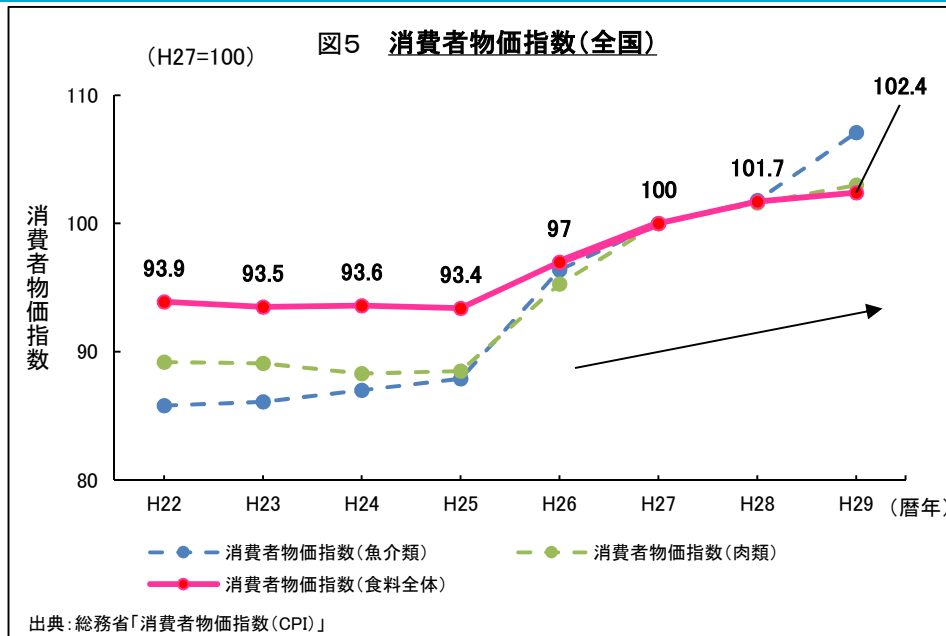
7 食料品製造業出荷額

- 平成28年における北海道の食料品製造業出荷額は、前年の22,063億円から461億円(2.1%)減の21,602億円となり、平成27年に目標値(22,000億円)を上回ったものの平成28年は目標値を下回った。
 - 主な産業分類別内訳の増減を見ると、水産食料品及び畜産食料品等が減少している。
 - 北海道の食料品製造業付加価値率は、相対的に低い水準にとどまっている。
- (参考) ・ 食料品製造業出荷額に影響を及ぼすと考える指標の推移を見ると、近年、主な食料品に関する消費者物価指数が高い伸びを示しており、また、エンゲル係数が増加傾向で推移している。
- ・ 原材料使用額等と食料品製造業出荷額には高い相関が見られる。
 - ・ 北海道の食料品製造業出荷額に係る産業別内訳を付加価値率別に分類すると、全国と比較し、付加価値率30%未満の産業の製造品出荷額の割合が高くなっており、約70%を占めている(全国の同値は約31%)。

【平成26年】 19,846億円 → 【平成28年】 21,602億円 → 目標【令和7年】 22,000億円

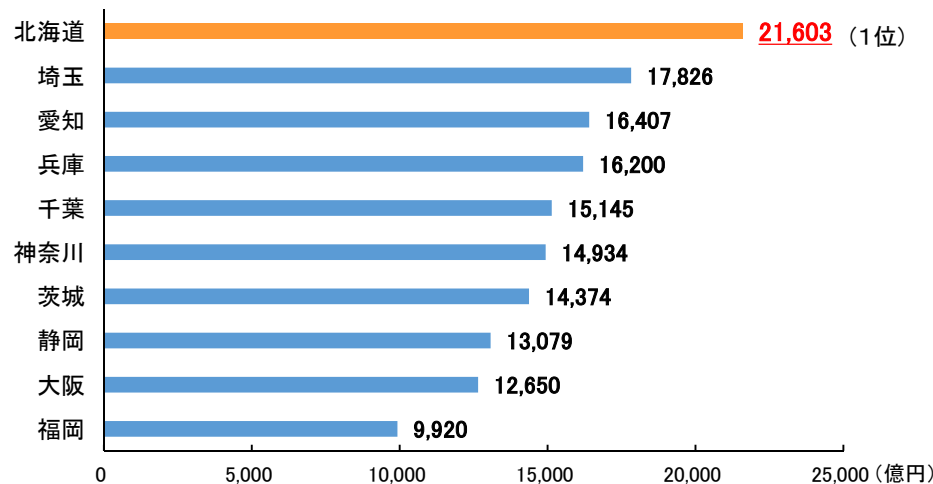


(参考:モニタリング指標等)



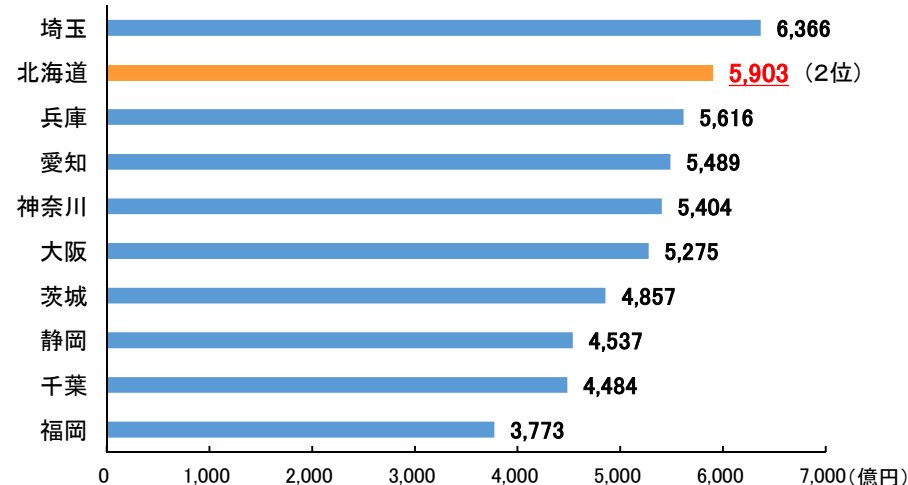
(参考:モニタリング指標等)

図9 食料品製造業出荷額上位10都道府県(平成28年)



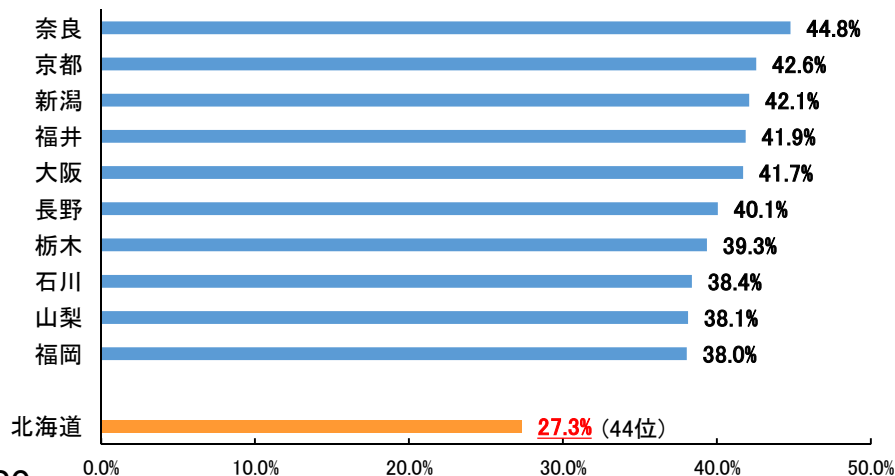
出典:経済産業省「工業統計調査」から北海道局作成

図11 食料品製造業付加価値額上位10都道府県(平成28年)



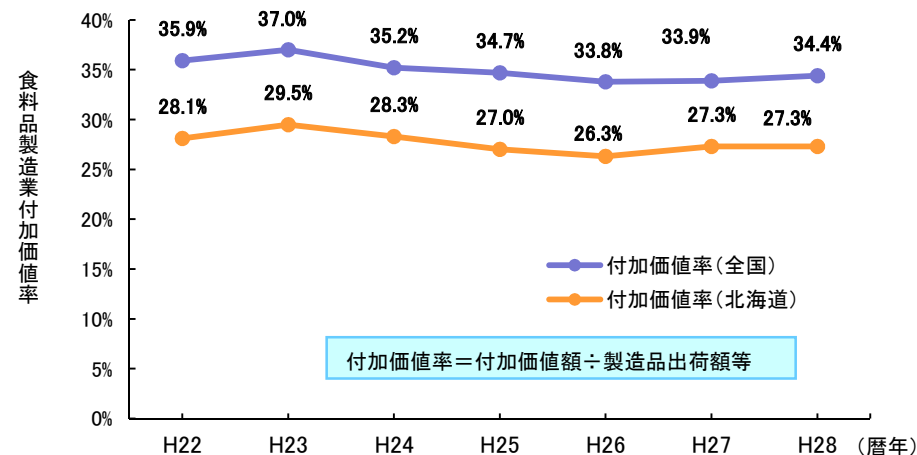
出典:経済産業省「工業統計調査」から北海道局作成

図10 食料品製造業付加価値率上位10都道府県(平成28年)



20 出典:経済産業省「工業統計調査」から北海道局作成

図12 食料品製造業付加価値率(全国・北海道)

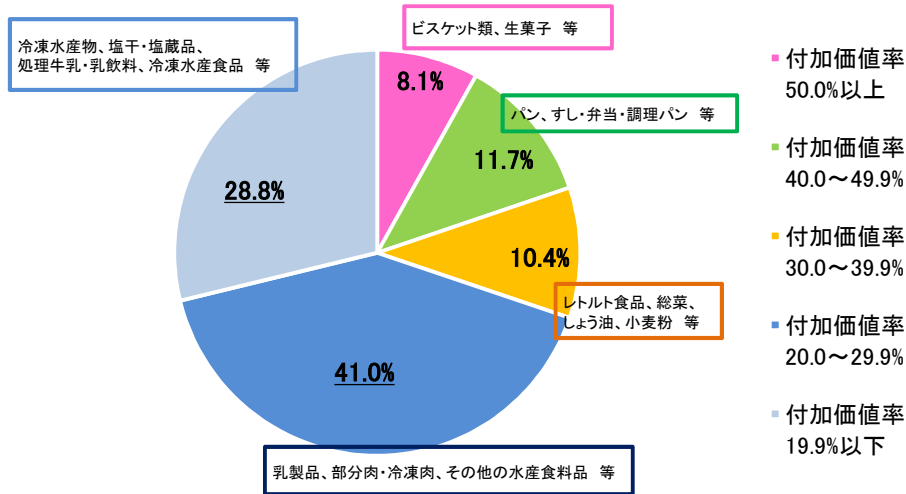


出典:経済産業省「工業統計調査」、「経済センサスー活動調査」、北海道「工業統計調査」

$$\text{付加価値率} = \text{付加価値額} \div \text{製造品出荷額等}$$

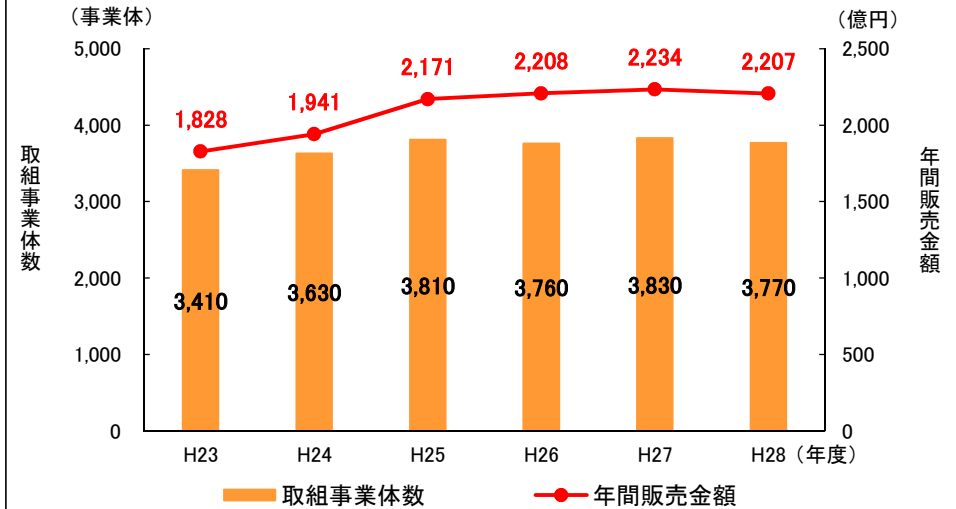
(参考:モニタリング指標等)

図13 北海道 食料品製造業(公表36産業細分類)の付加価値率階層別 製造品出荷額等の構成割合 (平成28年)



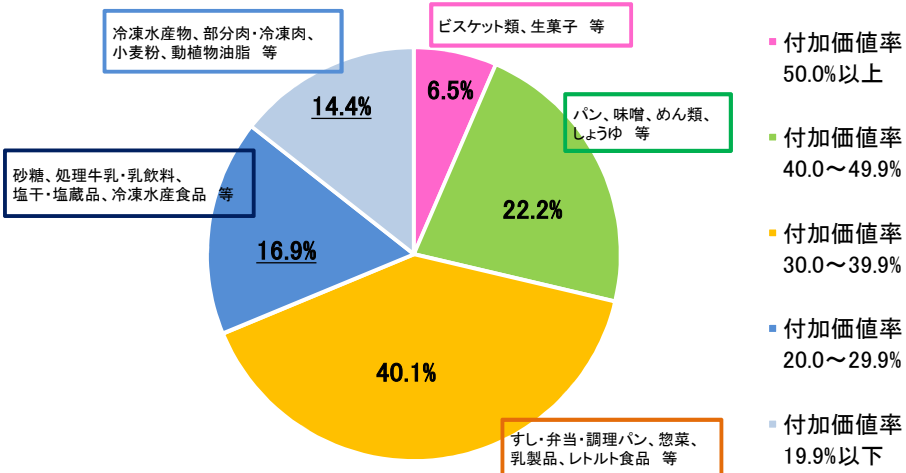
出典: 経済産業省「工業統計調査」から北海道局作成

図15 6次産業化取組事業体数及び年間販売金額(北海道)



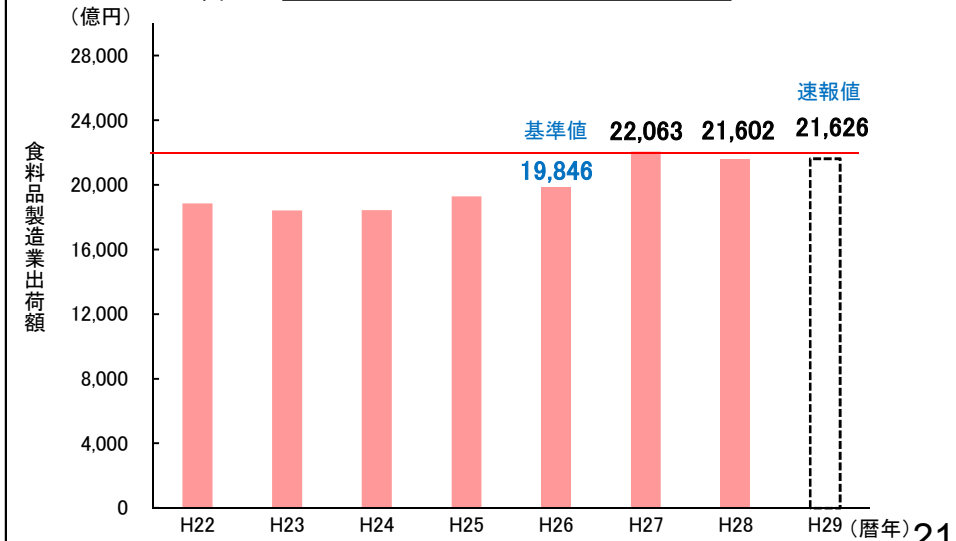
出典: 農林水産省「6次産業化総合調査」

図14 全国 食料品製造業(公表41産業細分類)の付加価値率階層別 製造品出荷額等の構成割合 (平成28年)



出典: 経済産業省「工業統計調査」から北海道局作成

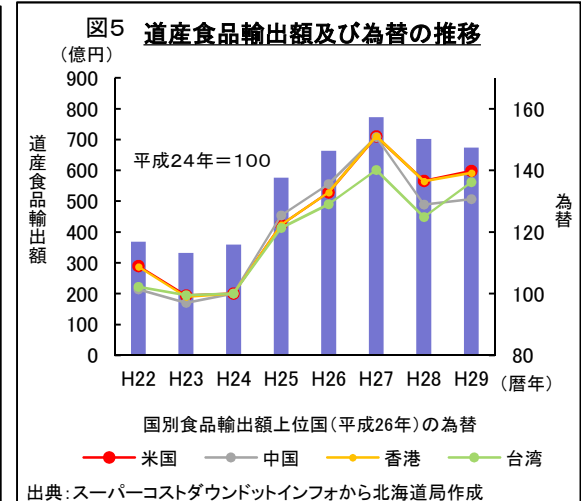
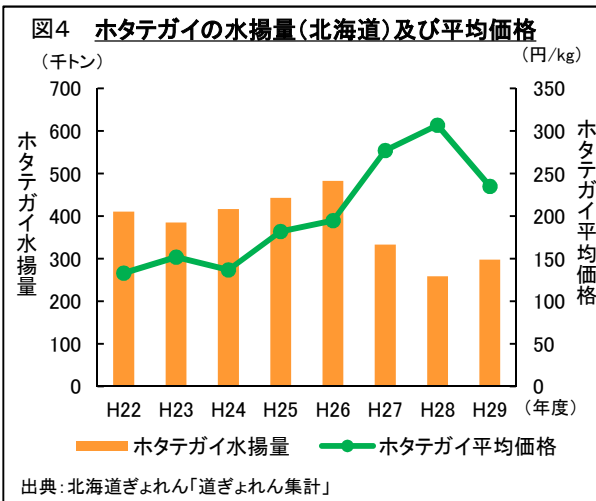
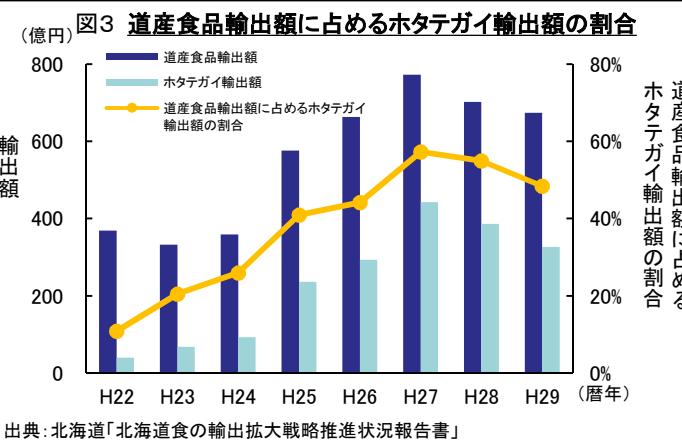
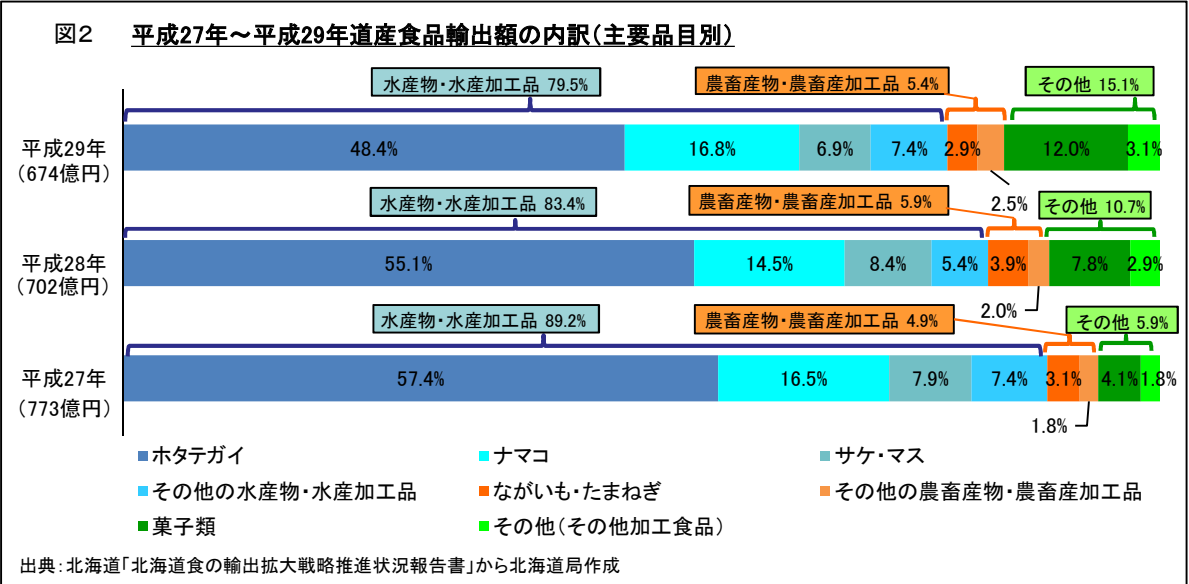
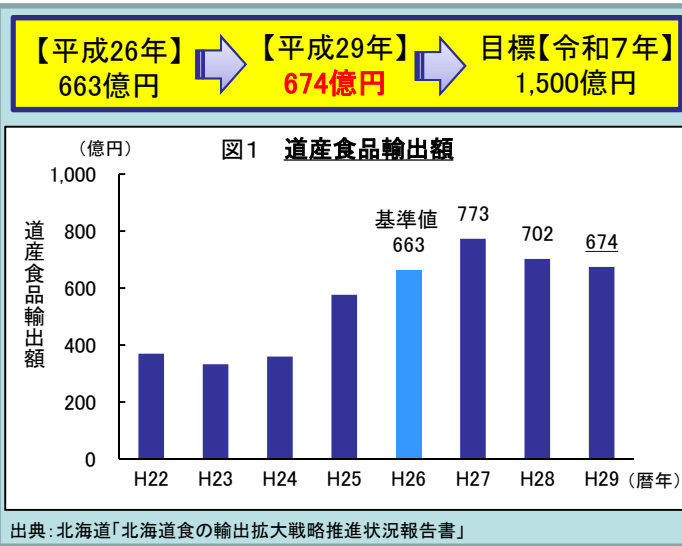
図16 食料品製造業出荷額(北海道(速報値含む))



出典: 北海道「工業統計調査」

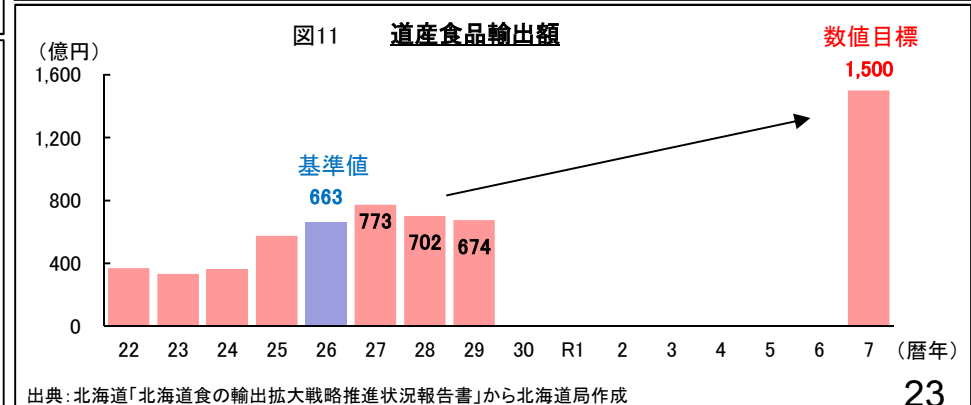
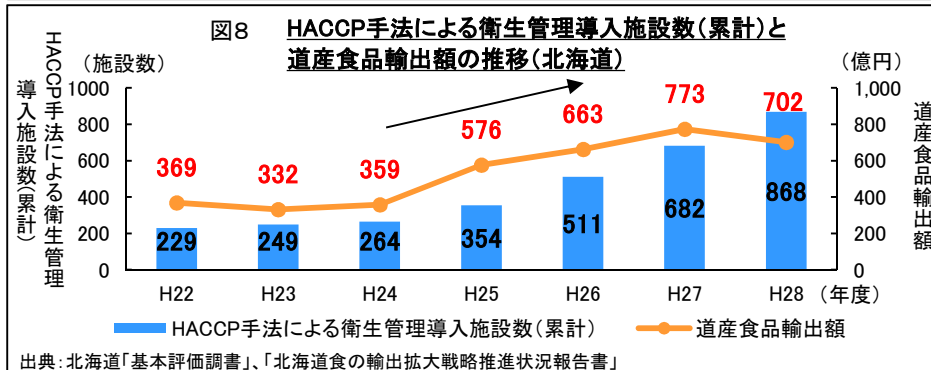
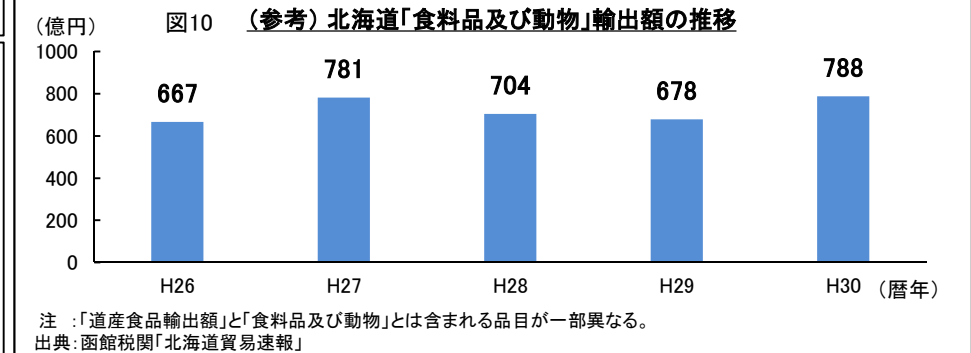
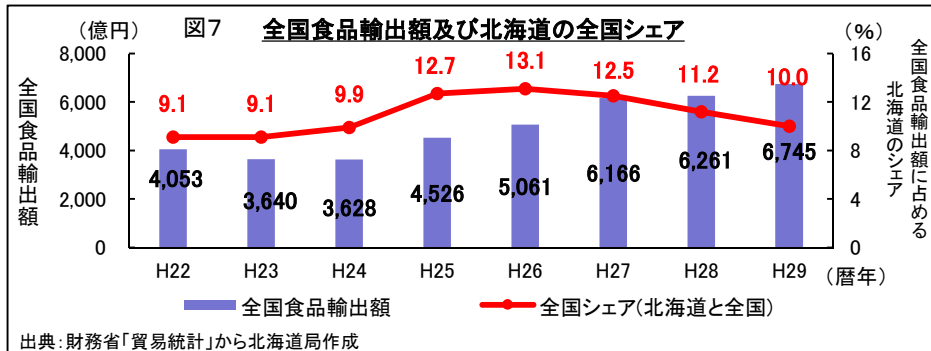
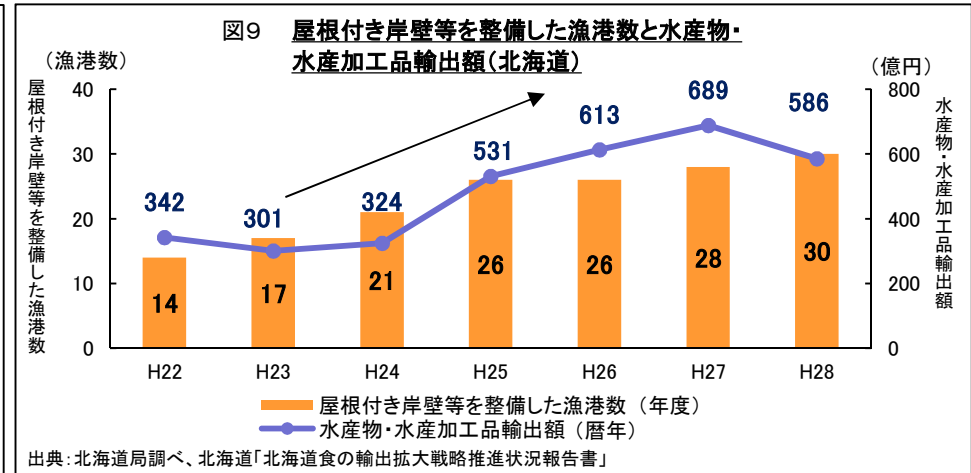
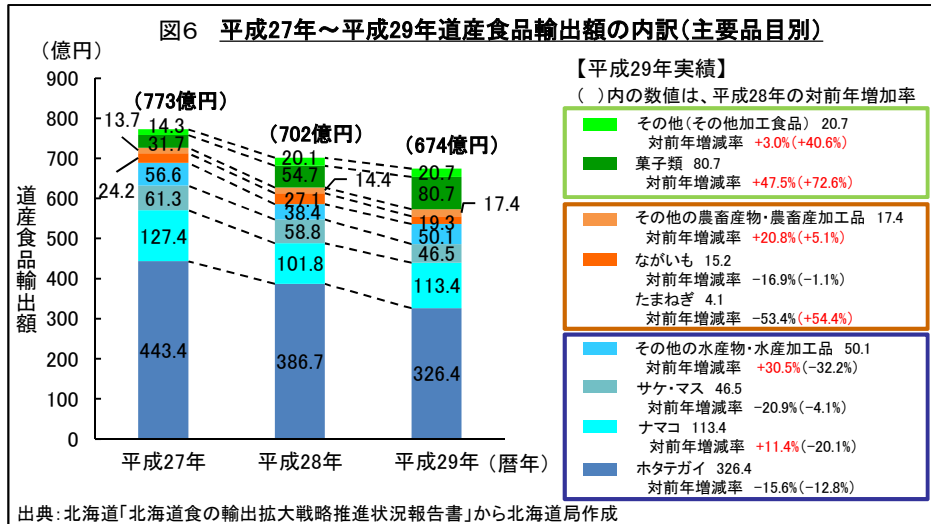
8 道産食品輸出額

○ 平成29年の道産食品輸出額は、平成26年の基準値を上回っているものの、前年(702億円)から28億円減の674億円(対前年3.9%減)と2年連続の減少となった。
 (参考)・総輸出額の約80%を占める水産物・水産物加工品(中でも全体の約50%を占めるホタテガイ)の動向等が、総輸出額のための増減要因になっているが、近年菓子類等の輸出割合が増加するなど輸出品目の多様化が図られてきている。



【ホタテガイ水揚量減少の主な背景】
 ・ H26年12月: 大型低気圧によるオホーツク海域ホタテ稚貝の斃死
 ・ H28年8月: 台風10号による噴火湾養殖施設の被害

(参考:モニタリング指標等)



9 平成30年北海道胆振東部地震による農林水産関係被害状況

○ 平成30年北海道胆振東部地震による農林水産関係の全体の被害額は、1,147億円となっている(平成31年1月28日時点)。

表 平成30年北海道胆振東部地震による農林水産関係の被害状況

区分	主な被害	被害数	被害額(億円) (*1)
農作物等	農作物等	263ha	3.5
	樹体	4ha	0.0
	家畜 (*2)	530,647頭羽	0.9
	畜産物(生乳等) (*2)	23,437トン	23.6
	農業用ハウス等	1,626件	9.4
	畜産用施設	294件	11.4
	自然牧野	1箇所	0.0
	在庫品 (*2)	353トン	0.5
	共同利用施設	52件	33.0
	農業用機械	281件	2.2
	小計		
農地・農業用施設関係	農地の破損	161箇所	56.0
	農業用施設等	144箇所	523.6
	小計		579.6
林野関係	林地荒廃	171箇所	407.2
	治山施設	18箇所	23.2
	林道施設等	221箇所	41.5
	木材加工・流通施設	7件	0.3
	特用林産物施設等 (*2)	29件	3.2
	小計		475.4
水産関係	水産物 (*2)	6件	0.0
	漁港施設等	3漁港	5.1
	小計		5.1
合計			1147.7

*1: 引き続き調査中。

*2: 停電による2次被害も含まれる。

出典: 農林水産省HP「平成30年北海道胆振東部地震による被害状況」

図1 生乳生産量の推移(北海道)

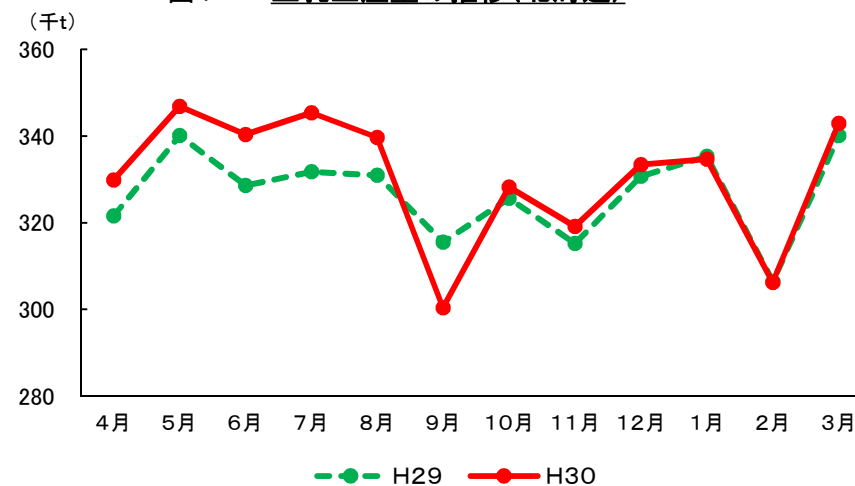
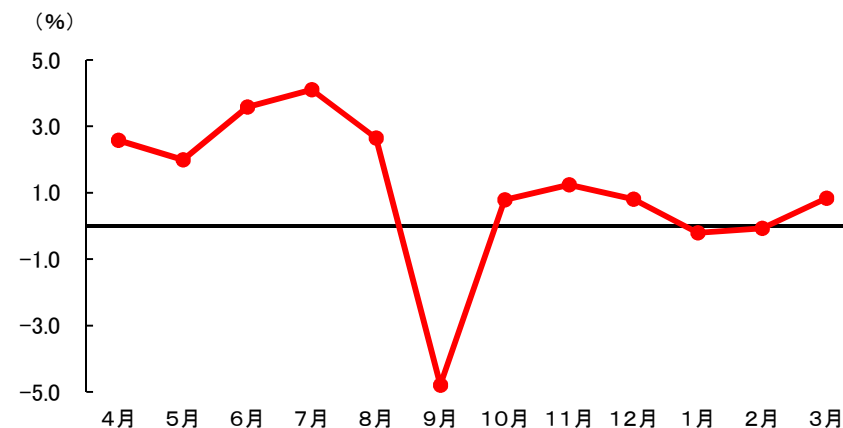


図2 生乳生産量対前年増減率の推移(北海道)(平成30年度)



出典: 農林水産省「牛乳乳製品統計」